

第2次みやま市環境基本計画

未来へつながる 持続可能なまちづくり
～資源循環一人ひとりの心がけ～



令和3（2021）年3月
みやま市

はじめに

みやま市では、第1次みやま市環境基本計画を平成22（2010）年3月に策定し、山・川・海がそろった豊かな自然を次世代に引き継ぐため、「人と自然が共生するまち」を環境像に、循環型社会を構築するため廃プラスチック分別、紙おむつ分別、生ごみ分別を開始し、市民の皆様のご協力により、ごみのリサイクル率は15.2%から36.4%と大きく前進し、県内2位のリサイクル率を達成しました。また、平成27（2015）年からエネルギーの地産地消事業を開始し、「生ごみ」と「太陽光」の地域資源を活かす、資源循環のまちづくりが大きく前進した10年間でありました。

近年、地球温暖化が原因の気象災害が激しさを増しています。強い台風や集中豪雨、干ばつや熱波など、異常気象による災害が世界各地で発生し、本市においても昨年7月の豪雨災害により今なお災害復旧工事が進められています。

まさしく人類の存亡の危機ともいえる地球規模の気候危機を解決するため、国連は持続可能な開発目標SDGsを採択し、パリ協定では世界の平均気温上昇を産業革命前と比較して、2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力を世界中の国々で目指しています。

日本でも、2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す政策目標を菅義偉総理が令和2（2020）年10月26日に表明されています。

こうした状況を踏まえ、「第2次みやま市環境基本計画」では、目指す環境像を「未来へつながる 持続可能なまちづくり」とし、昨年市議会で採択された「みやま市 資源循環のまち宣言（ゼロ・ウェイスト宣言）」を具体化し、2050年までに本市の二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を目指し、市民や事業者の皆様と共に、脱炭素社会の構築を大きな柱と位置付けました。

現在進めている新たなごみ焼却施設の建設においても、生ごみやプラスチック等のごみの分別による焼却ごみの減量化は、維持管理費の削減と温室効果ガスの削減につながる重要な取り組みとなります。

最後に、本計画の策定にあたりまして、新型コロナウイルス感染が広がる大変な時期にも関わらず環境基本計画策定にご尽力頂いた環境審議会の皆様、ワークショップに参加いただいた市民・中学生・高校生の皆様に心から感謝申し上げますとともに、今後もより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



令和3（2021）年3月
みやま市長 松嶋盛人

目次

[第1章] 計画について

1	計画の目的	2
2	計画の期間	3
3	本市のこれまでの取り組み	4
4	環境問題等に関する動向	5
5	計画の位置づけ	10
6	市民・事業者・市役所の役割	13

[第2章] 計画の基本的な考え方

1	めざすまちの姿	15
2	計画達成のための基本目標	16
3	計画の概要	17

[第3章] 目標達成に向けて

目標1	低炭素社会の実現に向けた取り組み	20
目標2	資源を賢く使う循環型の社会づくり	25
目標3	健康で快適に暮らせる生活環境づくり	31
目標4	豊かな自然環境を未来へつなぐ	35
目標5	市民一人ひとりが環境を考え行動する	40

[第4章] 計画の進め方

1	計画の推進方法	45
---	---------	----

[参考資料]

	用語集	47
	策定スケジュール	51
	みやま市環境審議会委員	52
	第2次みやま市環境基本計画検討委員会構成員	53
	ワークショップ結果報告	54
	山門高校、高田中学校ワークショップ結果報告	62
	第1次環境基本計画の達成状況	63

第 1 章

[計 画 に つ い て]

1 計画の目的

計画の目的

本市は平成22（2010）年3月にみやま市環境基本計画を策定し「人と自然が共生するまち」を実現するために「良好な生活環境の保全」「歴史的財産の保全」「人と自然の共生」「地球にやさしいまちづくり」「みんなで守る、みんなで創る」を基本方針とし、各種施策の総合的かつ計画的な推進に努めてきました。具体的には、循環型社会の実現をめざし、バイオマス施設の建設や再生可能エネルギーの推進に努めてまいりました。

しかし、近年の地球環境を取り巻く問題は多様化しており、地方自治体に対して、従来の環境保全を中心とした計画から国内外の環境情勢の変化に対応した新たな計画が求められています。

2015年に合意されたパリ協定※P47では、「産業革命前からの地球の平均気温上昇を2℃未満とし、1.5℃に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有されましたが、2018年に公表された国連IPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書によると、地球の平均気温は産業革命前から既に1℃上昇しており、1.5℃の気温上昇まで、早ければ10年後にも到達すると警鐘をならしています。

菅義偉総理は令和2（2020）年10月26日、国会での所信表明演説の中で、日本政府として初めて、2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すとする政策目標を表明されました。

こうした状況を踏まえ、「第2次みやま市環境基本計画」では、目指す環境像を「未来へつながる 持続可能なまちづくり」と位置付けました。

具体的には、未来を生きる次世代に美しいみやま市を引き継いでいくため、昨年市議会において全会一致で決議された「みやま市 資源循環のまち宣言（ゼロ・ウェイスト宣言）」の理念を実行していくことで、市民や事業者の皆さまと共に、脱炭素社会の構築を大きな柱としています。



2 計画の期間

計画の期間

計画期間は、本市の目指すべき環境像を見据え、令和2（2020）年度から令和11（2029）年度までの10年間を計画の対象期間とします。また、この期間内で目標を設定し、計画の進捗状況を適宜確認していきます。

環境基本計画の期間は10年間ですが、計画の進捗状況や社会情勢の変化等を勘案し、5年をめでに計画の見直しを行うものとしています。



みやま市バイオマスセンター(ルフラン)



3 本市のこれまでの取り組み

本市のこれまでの取り組み

第1次計画において、本市では目指すべき環境像を『人と自然が共生するまち』とし、各種取組を進めてきました。

この実現のため、施策ごとに「環境目標」を定め、実現の手段として「主体別取組」を設定し、「数値目標」による目標管理を行うことで施策の進捗状況を評価してきました。第1次計画に基づくこれまでの取組状況について、令和元（2019）年度における達成状況は以下のとおりです。

現状(2019年度)における達成状況の評価

- ◎:2019年度の目標を達成している。
- △:2008年度より改善しているが、目標には至っていない。
- ×:2008年度より悪化している、もしくは変化なし。

数値目標の達成状況

分野	指数総数	評価			達成・改善率
		◎	△	×	
施策	37件	20件	7件	10件	73%

詳細については、「参考資料p63-66」を参照。



4 環境問題等に関する動向

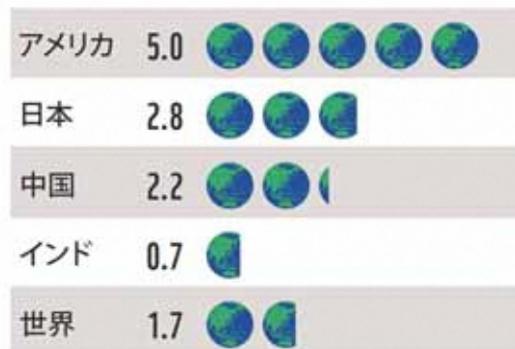
地球の1個分の暮らしを目指して

かつて、人類は暮らしに必要なすべてのモノを、地球上にある自然の恵みから受け取っていました。しかし、工業化の発展により、地下にある化石燃料や様々な資源が大量に使われるようになりました。そして、身のまわりを快適にするために、自分に都合よく資源を消費し、自然にあまり配慮せず土地を開発するようになりました。

もし、世界の人が全て、今の日本と同じような生活をした場合は、地球2.8個分の自然資源が必要になると考えられています。

地球は何個必要?

もし世界人口がその国と同様の生活をしたら…



出典：グローバル・フットプリント・ネットワーク、NFA2018

<https://www.wwf.or.jp/activities/activity/4033.html>

持続可能であるとは？

このまま、身のまわりの自然から目をそらして、何も考えずに資源を使い続ければ、自然の恵みは失われ、いつかは世界中の資源を使い果たし、今のよう豊かな暮らしができなくなってしまいます。

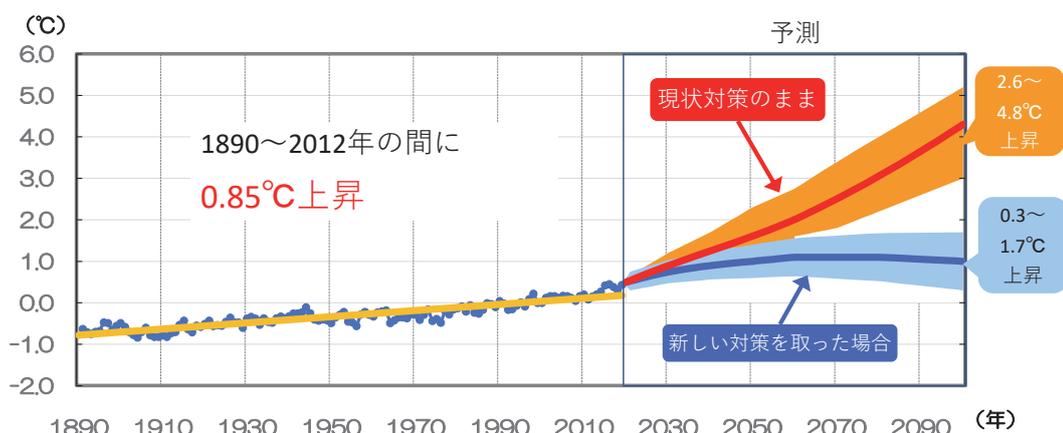
出所：真庭市「第2次真庭市環境基本計画」(2018.4)



地球温暖化による気候危機

世界の年平均気温は、様々な変動を繰り返しながら上昇しており、長期的には100年あたり0.85℃の割合で上昇しています。

このまま有効な温暖化対策をとらなかった場合、21世紀末の世界の平均気温は、2.6～4.8℃上昇、厳しい温暖化対策をとった場合でも0.3～1.7℃上昇すると言われております。



出所：IPCC 第5次評価報告書 統合報告書、気象庁「世界の平均気温 偏差(°C)」より、みやま市作図・加工

地球温暖化による影響

環境省は令和2（2020）年6月12日、地球温暖化によって、今後、豪雨災害などのさらなる頻発化・激甚化が予測されるとして「気候危機宣言」を出しました。同日閣議決定した令和2（2020）年版環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書で初めて「気候危機」という言葉も明記しました。



パリ協定

パリ協定は、2015年12月にフランス・パリで開催されたCOP21（国連気候変動枠組条約第21回締約国会議）で、世界約200か国が合意して成立しました。

1997年に定まった「京都議定書」の後を継ぎ、国際社会全体で温暖化対策を進めていくための礎となる条約で、世界の平均気温上昇を産業革命前と比較して、2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力を追求することを目的としています。



日本政府の対応

菅義偉内閣総理大臣は令和2（2020）年10月26日、就任後初の所信表明演説で、「菅政権では成長戦略の柱に『経済と環境の好循環』を掲げ、グリーン社会の実現に最大限注力していく」と述べ、「我が国は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことをここに宣言する」と表明しました。

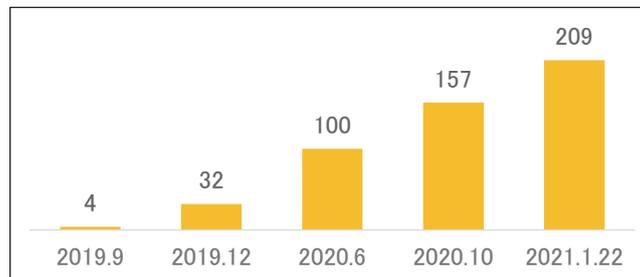


ゼロカーボンシティ

地球温暖化対策の推進に関する法律では、都道府県及び市町村は、その区域の自然的社会的条件に応じて、温室効果ガスの排出の抑制等のための総合的かつ計画的な施策を策定し、及び実施するように努めるものとされています。

こうした制度も踏まえつつ、昨今、脱炭素社会に向けて、2050年二酸化炭素実質排出量ゼロ（ゼロカーボンシティ※P48）に取り組むことを表明した地方公共団体が増えつつあります。

「ゼロカーボンシティ」を表明した地方公共団体の推移および一覧



北海道	山形県	栃木県	茨城県	千葉県	富山県	岐阜県	兵庫県	佐賀県
札幌市	山形市	鹿沼市	水戸市	千葉市	魚津市	大垣市	神戸市	佐賀市
石狩市	米沢市	大田原市	土浦市	成田市	南砺市	静岡県	明石市	武雄市
二七〇町	東根市	那須塩原市	古河市	八千代市	立山町	静岡市	奈良県	熊本県
古平町	南陽市	那須烏山市	結城市	山武市	石川県	浜松市	生駒市	熊本市
岩手県	朝日町	那須町	下妻市	野田市	金沢市	富士宮市	和歌山県	菊池市
久慈市	高島町	那珂川町	常総市	我孫子市	加賀市	御殿場市	那智勝浦町	宇土市
二戸市	川西町	群馬県	高萩市	浦安市	山梨県	牧之原市	鳥取県	宇城市
葛巻町	飯豊町	太田市	北茨城市	四街道市	南アルプス市	愛知県	北栄町	阿蘇市
普代村	庄内町	館林市	取手市	東京都	北杜市	岡崎市	南部町	合志市
軽米町	福島県	藤岡市	牛久市	世田谷区	甲斐市	半田市	島根県	美里町
野田村	郡山市	神流町	鹿嶋市	葛飾区	笛吹市	豊田市	松江市	玉東町
九戸村	大熊町	嬬恋村	潮来市	多摩市	上野原市	大府市	岡山県	大津町
津軽町	浪江町	みなかみ町	守谷市	神奈川県	中央市	みよし市	真庭市	菊陽町
一戸町		大泉町	常陸大宮市	横浜市	市川三郷町	三重県	広島県	高森町
八幡平市			那珂市	河崎氏	富士川町	志摩市	広島市	西原村
宮古市			筑西市	相模原市	昭和町	南伊勢町	尾道市	南阿蘇村
			坂東市	鎌倉市	長野県	滋賀県	香川県	御船町
			桜川市	小田原市	小諸市	湖南市	高松市	嘉島町
			つくばみらい市	三浦市	佐久市	京都府	善通寺市	益城町
			小美玉市	開成町	東御市	京都府	愛媛県	甲佐町
			茨城町	新潟県	松本市	宮津市	松山市	山都町
			城里町	新潟市	軽井沢町	京丹後市	福岡県	宮崎県
			東海村	柏崎市	池田町	大山崎町	北九州市	串間市
			境町	佐渡市	立科町	与謝野町	福岡市	鹿児島県
			埼玉県	粟島浦村	白馬村	大阪府	大木町	鹿児島市
			さいたま市	妙高市	小谷村	大阪府	長崎県	知名町
			秩父市	十日町市	南箕輪村	枚方市	平戸市	沖縄県
			所沢市			東大阪市	五島市	久米島町
						泉大津市		

※赤書きは表明都道府県、その他色書きはそれぞれ共同表明団体(2021.1.22現在)

持続可能な開発目標（SDGs）

国連は2015年に「持続可能な開発目標（SDGs：エスディーゼイズ）※P47」を全会一致で採択しました。「誰一人取り残さない（leave no one behind）」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標で、2030年までの達成を目標としています。

環境基本計画と関連のある目標は、次のとおりです。

環境基本計画と関連のある目標



質の高い教育
教育



清潔な水と
衛生



再生可能
エネルギー



新しい技術と
インフラ



持続可能な
まちと社会地域



責任を持った
生産と消費



気候変動
への対策



海のいのちを
守ること



陸のいのちを
守ること



目標のために
協力すること

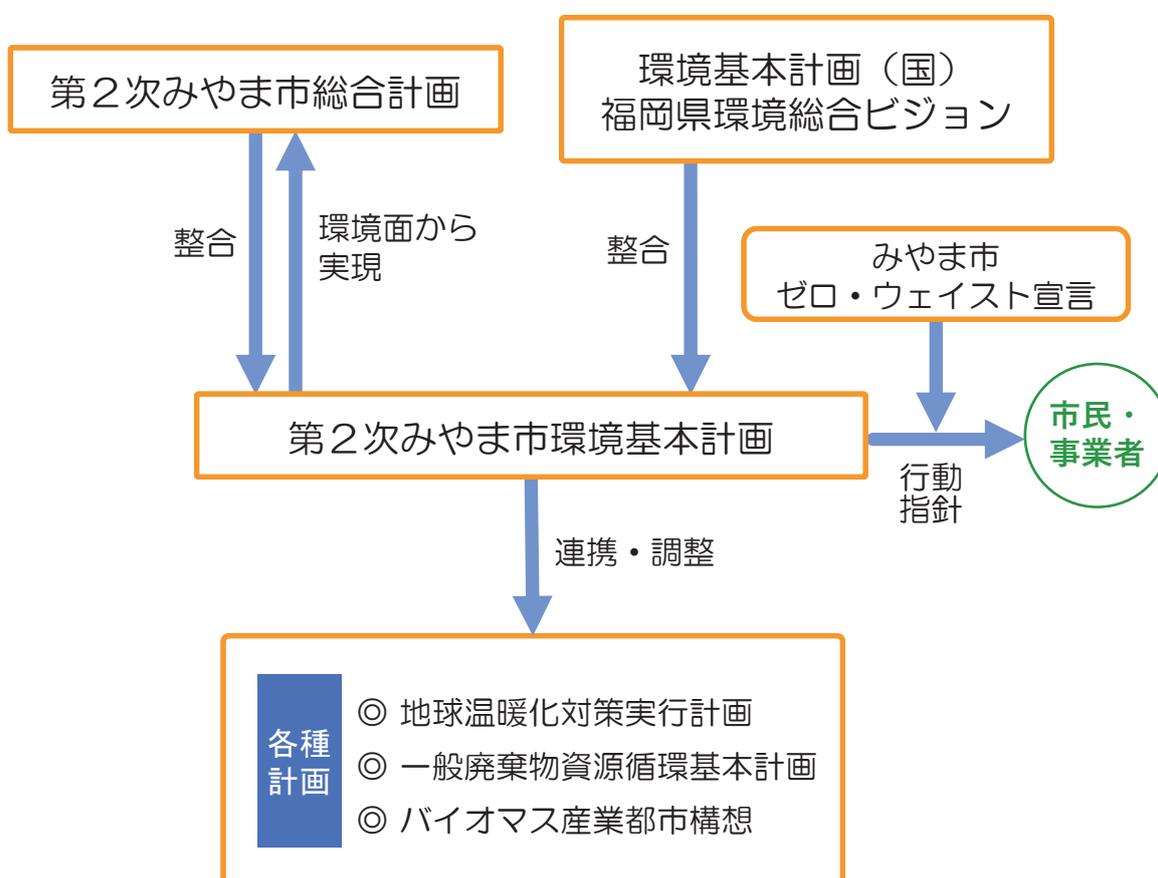


5 計画の位置づけ

本計画は、みやま市の環境行政の統括的なものとなり、第2次みやま市総合計画の実現を環境面から目指すものです。また、国や県の環境基本計画の方針を踏まえ策定します。

本計画でみやま市の環境施策の方向性を定め、各種計画（地球温暖化対策実行計画、一般廃棄物資源循環基本計画等）をもって、事業計画や数値目標を具体的に示します。

みやま市の豊かな環境を将来にわたって享受していくためには、市民の積極的な取り組みや連携・協働が必要です。持続可能な開発目標（SDGs）に合わせて、市民・事業者・市役所が一体となって行動することが重要です。



みやま市 資源循環のまち宣言 ～美しいみやま市をわたしたちの手で～

私たちがごみを分別し、資源として活用すること、地域でエネルギーや食料を作りだし、それを消費すること。

そうした一人ひとりの行動が、みやまに好循環をもたらし、子どもたちのよりよい明日を築きます。

美しいみやま市をつくるために、私たちは、資源循環のまちを目指すことを決意し、ここに宣言します。

1 ごみの分別による資源の循環

私たちは、プラスチックや雑紙などのごみを分別し、生ごみをバイオマスセンターで肥料やエネルギーとして利用することに取り組みます。

ごみを減らすと同時に、農業と地域を豊かにする資源循環型社会を目指します。

2 エネルギーの地産地消による暮らしやすい地域

私たちは、地域の再生可能エネルギーを通して、地域課題を解決していく、市民主体のエネルギーの地産地消を目指します。

3 地域と一体となった環境教育

私たちは、資源循環の教育を通して、「みやま版もったいない」の心を育てることに取り組みます。

この理念を共有する世界の人々と手をつなぎ、循環によるまちづくりの輪が広がる社会を目指します。

令和2(2020)年9月18日 みやま市議会



美しく豊かなみやま市を
未来の子どもたちに残すために
宣言をつくったよ！

みやま市ゼロ・ウェイスト宣言 行動計画



《行動1》

次世代を担う子どもたちへの教育の充実

- ・環境に関心を持ち、環境保全に対する理解を深めることが、環境問題を解決する第一歩です。
- ・“Think Globally, Act Locally”(地球規模で考え、足元から行動しよう)の考え方があるように、環境問題の解決には、一人ひとりが、できることから実際に行動に移していくことが非常に重要です。
- ・環境学習の場として、バイオマスセンター・ルフランを活用しましょう。



《行動2》

ライフスタイルのイノベーションや2Rによる、ごみを発生させない仕組みづくり

- ・ごみを発生させないためには、リデュース(減らす: Reduce)、リユース(繰り返し使う: Reuse)の2Rが重要です。
- ・マイバッグを使う、詰め替え商品や簡易包装商品を選ぶ、リサイクルショップを活用するなど、発生するごみの全体量を減らし、どうしても不要となったものは、きちんと分別することが重要です。



《行動3》

生ごみの資源化の推進と ごみ処理費用の削減の両立

- ・みやま市では、家庭・事業所で分別された生ごみを、バイオマスセンターで電力・温水と液体肥料に変換し、エネルギーと肥料の地産地消を実現しています。
- ・生ごみの分別により、燃やすごみが4割減り、ごみ処理経費の削減と地球温暖化の防止につながっています。
- ・市役所は市民・事業者に対し生ごみ分別の啓発活動を行い、市民・事業者は生ごみ分別に積極的に参加し、生ごみの資源化に協力しましょう。



《行動4》

市民一人ひとりが主体となった エネルギーの地産地消の推進

- ・日本では、エネルギー供給の約9割を海外から輸入することでまかなっています。
- ・みやま市では、みやま市が出資している「みやまスマートエネルギー(株)」がエネルギー(電力)の地産地消の実現を目指しています。
- ・家庭、事業所における電気エネルギーについて、太陽光発電、蓄電池、電気自動車の導入やスマートエネルギーへの加入を検討しましょう。



《行動5》

市民・事業者・行政が 一体となった取り組みの推進

- ・現在、地域と市役所が共通の目標に向かってともに進める地域協働型のまちづくりが求められています。
- ・みやま市では、これまで市民との協働により、さまざまな分野において施策を実施してきました。
- ・今後は、市の重要施策をはじめ、「資源循環型社会のまちづくり」の実現に向けた新電力事業やバイオマス事業など、より一層の住民との協働が求められています。
- ・環境保全活動や資源循環活動などの実施に協力し、応援を行いましょう。



《行動6》

ごみの発生を抑制する 法制度整備に向けた働きかけ

- ・ごみ発生抑制、海洋プラスチック汚染などは、全世界共通の環境問題となっています。
- ・日本では、令和2年7月にレジ袋有料化義務化がスタートし、法制度の面から、ごみ発生抑制に取り組んでいます。
- ・ごみを発生させないためには、法制度により規制し、抑制する方法も重要となってきます。
- ・みやま市から、国に対して、法制度整備を提言しましょう。



《行動7》

ゼロ・ウェイストの輪を 日本に世界に広げる取り組み

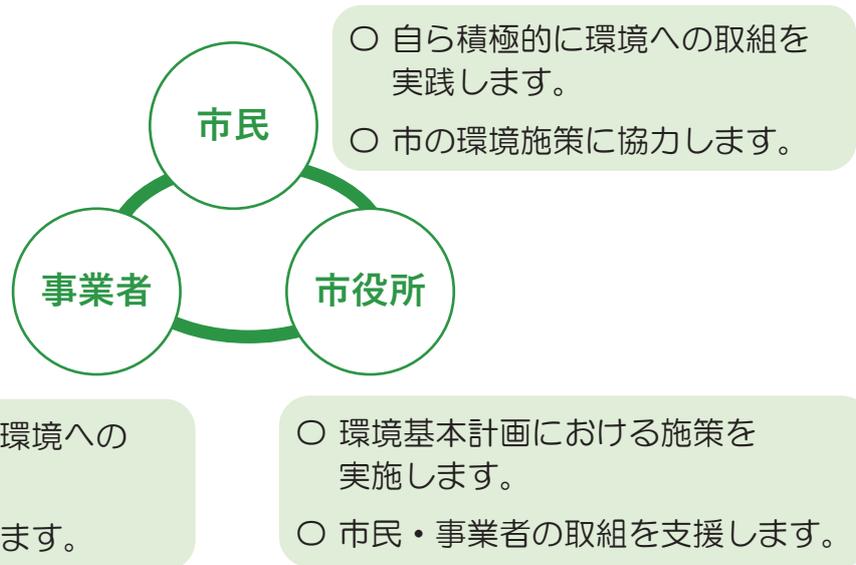
- ・脱炭素やごみゼロは、日本の課題でもあり、全世界共通の課題です。
- ・みやま市では、ゼロ・ウェイスト宣言及び環境基本計画を実行することで、環境先進自治体を目指します。
- ・また、宣言・計画を英訳し、SNSで世界に発信します。
- ・全国へ、世界へ情報を発信することで、「循環によるまちづくり」の輪が広がる社会を目指します。



6 市民・事業者・市役所の役割

市民・事業者・市役所の役割

環境基本計画の実行にあたっては、市民・事業者・市役所が一体となって本市全体で進めていくとともに、市民・事業者・市役所がそれぞれの役割を自覚し、役割を確実に果たすとともに協働して取り組んでいくことが重要です。

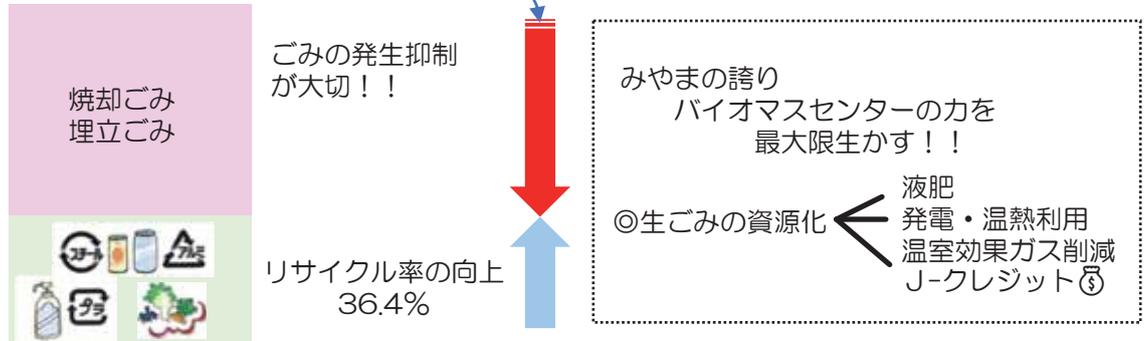


第 2 章

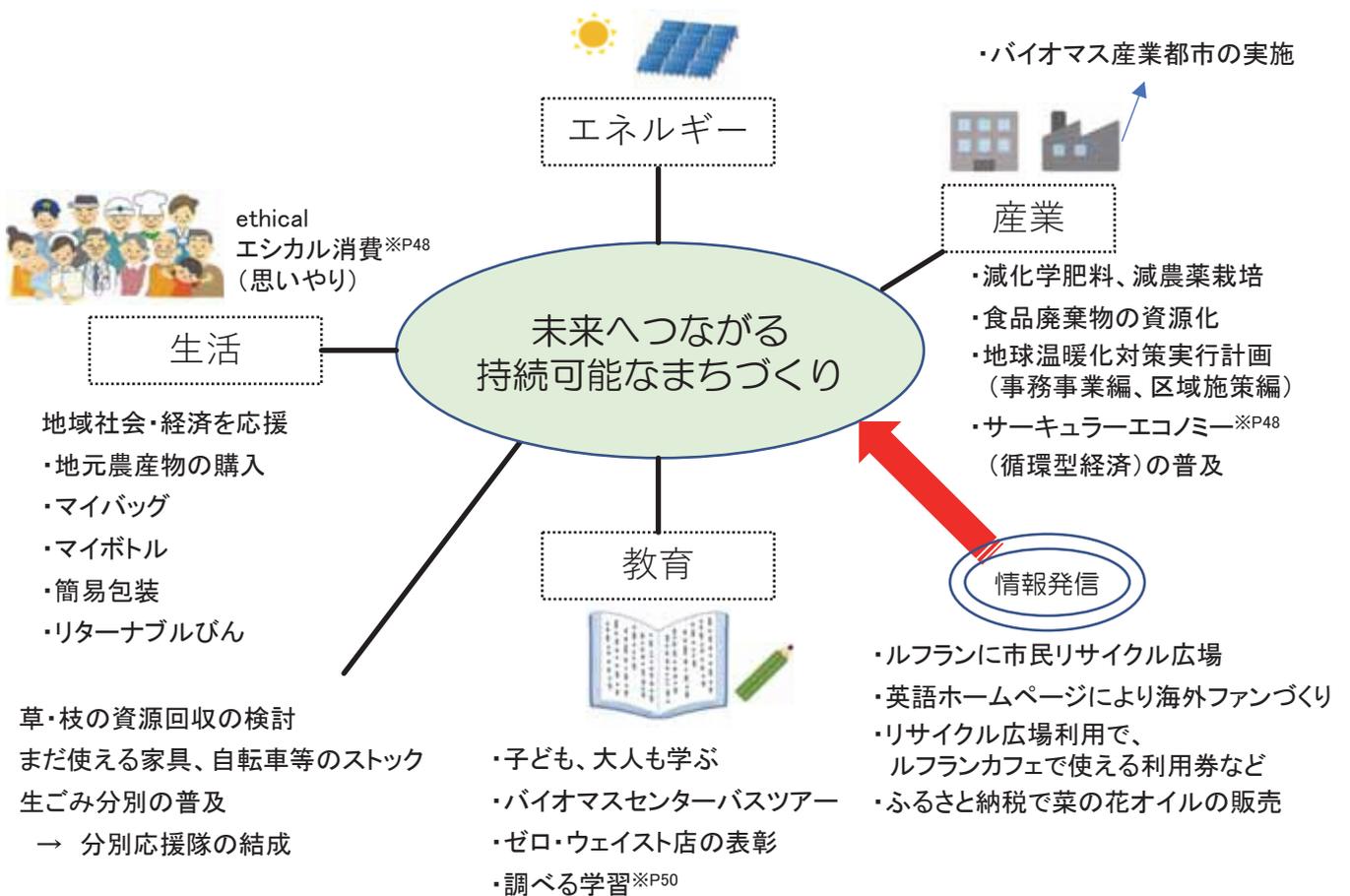
[計画の基本的な考え方]

1 めざすまちの姿

世界の気温上昇を食い止めるには、



- ・化石燃料から再生可能エネルギーへ
- ・自転車レンタル
- ・くすっぴー号の利用
- ・プラ製ごみ袋の見直し(紙製ごみ袋)



2 計画達成のための基本目標

第2次みやま市総合計画では、市の将来像を『人と自然が共に育み、つながり、成長し続けるまち』と定め、まちづくりを推進していくこととしています。

この将来像は、「人」が主役となって、みやま市の持つ「水」「緑」を中心とした豊かな地域資源を生かし、磨き上げ、協働の理念に基づき豊かなまちづくりを行っていくことが必要であることから定められたものです。

豊かな自然を有するみやま市を、よりよい姿で子孫に残していくため、今このまちに住む私たちの「環境像」を次のとおり掲げます。

未来へつながる 持続可能なまちづくり ～資源循環一人ひとりの心がけ～

環境像を実現するために、5つの基本目標を定めます。

【目標1】
低炭素社会の実現に
向けた取り組み

市内の自然資源から生まれる再生可能エネルギーの活用を推進するとともに、身近なところから温室効果ガスを減らす暮らしを心がけ、低炭素社会ゼロカーボンシティのまちを目指します。

【目標2】
資源を賢く使う
循環型の社会づくり

「大量生産・大量消費・大量廃棄」型のライフスタイルを見直し、有限な資源の効率的な利用やりサイクルを進めることにより、資源の消費が抑制された循環型のまちを目指します。

【目標3】
健康で快適に暮らせる
生活環境づくり

清らかな水、さわやかな空気の中で公害のない環境で生活ができるよう、環境に負荷をかけない暮らしを心がけ、安全・安心で快適なまちを目指します。

【目標4】
豊かな自然環境を
未来へつなぐ

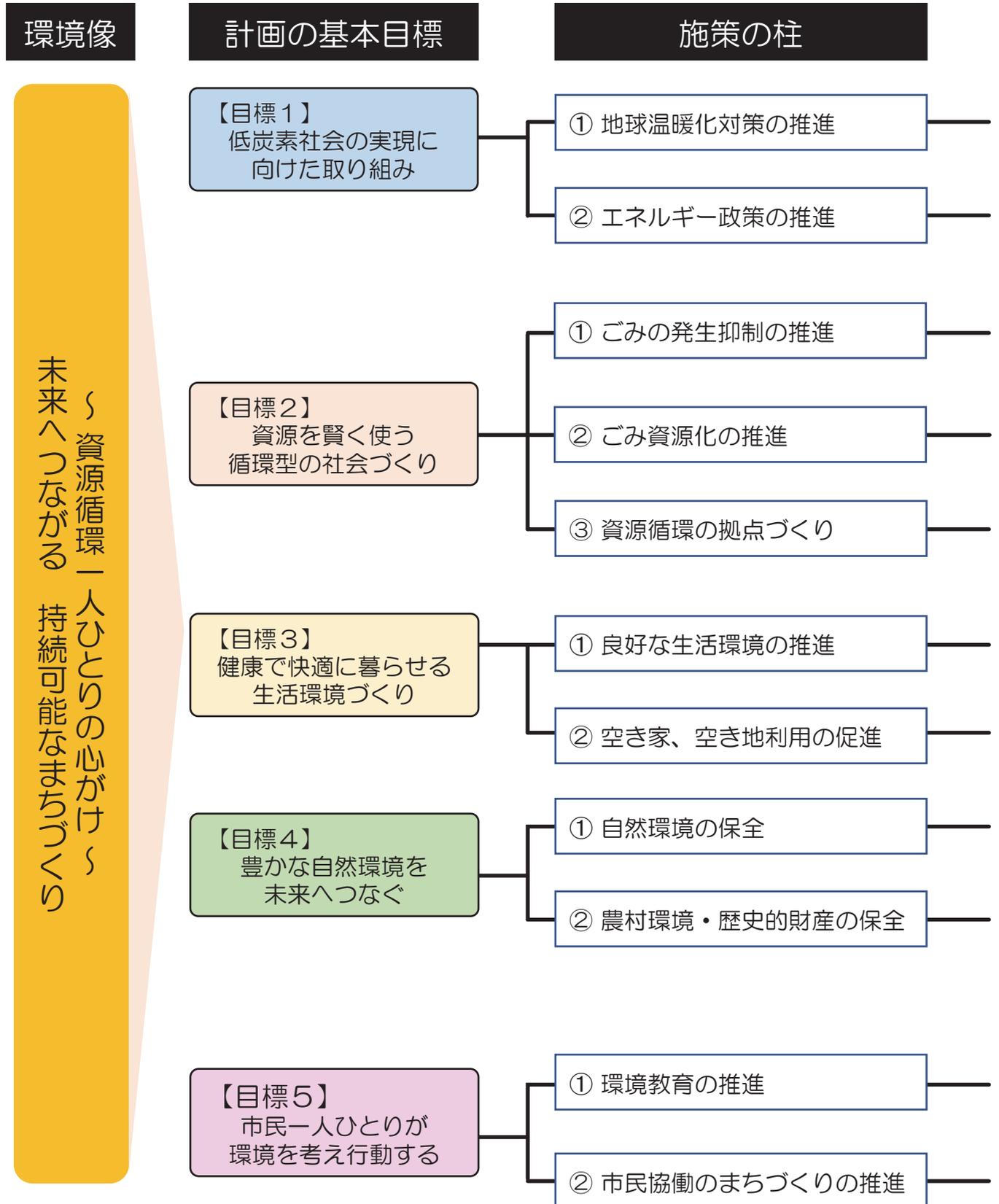
豊かな自然からの恵みを、将来の世代まで次世代に享受できるように、生物多様性の重要性を認識し、自然と共生するまちを目指します。

【目標5】
市民一人ひとりが
環境を考え行動する

持続可能な社会づくりの担い手を育む教育（ESD^{※P47}）を推進し、様々な世代を対象とした環境学習を推進し、みんなが環境について考えるまちを目指します。

3 計画の概要

5つの基本目標に基づき、施策の柱を定め、市役所・市民・事業者が取り組むべき具体的施策を示します。



市役所の取り組み

地球温暖化対策実行計画の策定
(ゼロカーボンシティの表明)
自転車のレンタル
プラ製ごみ袋の見直し

再生可能エネルギーの普及
エネルギーを視点においた持続可能なまちづくり
家庭における創エネ・省エネの促進

一般廃棄物資源循環基本計画の改定
ごみ減量化の推進
食品ロス削減の推進
簡易包装店の推進

ごみ資源化の推進
生ごみ分別の普及 → 分別応援隊の結成
バイオマス産業都市構想の実現

ルフランの活用

監視体制・指導の強化
下水道事業の推進
公共交通機関の利便性向上

空き家バンク制度の利用促進

自然環境（緑）の保全
生物多様性の確保

農業生産基盤の整備
地産地消の推進
みやまブランドづくりの推進
都市と農村の交流推進
特産品販売所の活性化
文化財の保護・保存

環境教育の推進
調べる学習の支援

市民協働によるまちづくりの推進

市民・事業者の取り組み

省エネ行動の実践
クールチョイスの実践

再生可能エネルギーの普及
電気自動車・蓄電池等の普及
みやまスマートエネルギーへの加入促進

ごみを出さない計画的な買い物の実施
マイバッグ、マイボトル、マイ箸の使用

ごみ分別の徹底

ルフラン各種施設の利用

河川清掃の実施
公共交通機関の利用

空き家バンク制度への登録

自然環境（緑）の保全

地元農産物の購入
農薬・除草剤を減らす

環境について子どもたちと共に学び上げます

市民協働によるまちづくりへの参画

第 3 章

[目 標 達 成 に 向 け て]

目標 1 低炭素社会の実現に向けた取り組み

目指すまちの姿

私たちは、地域の再生可能エネルギーを通して、地域課題を解決していく、市民主体のエネルギーの地産地消を目指します。

① 地球温暖化対策の推進

現状と課題

- 市関連施設のCO₂排出量は、順調に削減が進んでいますが、国が設定している目標値を達成するために、さらなる取り組みが必要です。



主な施策と方向性

今後、策定する「地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」に基づき、市の事務及び事業活動により発生する温室効果ガス（CO₂など）を削減します。実行計画における削減を図りながら、得られた知見・経験を生かし本市全域を対象とする「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を策定します。

地球温暖化対策実行計画（事務事業編・区域施策編）

地球温暖化対策実行計画とは、地球温暖化防止の推進を図るため、事業活動や生活によって排出されている温室効果ガス（CO₂など）の削減目標を定め、具体的な行動を示す計画です。

地域の自然的社会的条件に応じた温室効果ガス（CO₂など）の削減計画が必要なため、みやま市の地域特性に応じた計画が必要となります。

事務事業編は、みやま市役所の事業活動に伴うもの

区域施策編は、みやま市民・事業者の生活・事業活動に伴うもの



市役所の取り組み

地球温暖化対策実行計画の策定(ゼロカーボンシティの表明)

- 「地球温暖化対策実行計画(事務事業編、区域施策編)」を策定し、市役所と市民・事業者の事業活動によって発生するCO₂排出量の削減を図ります。

自転車のレンタル

- 観光客を対象に、自転車のレンタル事業を実施し、移動に関するCO₂排出量の削減を図ります。



プラ製ごみ袋の見直し

- 化石燃料が原料のプラスチック製の燃やすごみ袋を再生プラスチックや紙袋へ見直すことで、焼却時に発生するCO₂排出量の削減を図ります。

市民・事業者の取り組み

省エネ行動の実践

- 電気やガス、水などのエネルギーや資源を使うときは無駄のないように省エネ行動を実践しましょう。
- クールビズ、エコドライブ、自転車の利用など身近にできる行動から実践しましょう。

みんなができる省エネ行動を考えよう!



クールチョイスの実践

- 買い物やサービスの利用において、地球温暖化対策に資する「クールチョイス(賢い選択)※P50」を実践しましょう。



② エネルギー政策の推進

現状と課題

- 本市では、日本初の電力小売りによる地域新電力会社「みやまスマートエネルギー(株)」を出資、設立しました。
- この会社は、同じく市の出資会社である地産エネルギーの発電会社「(株)みやまエネルギー開発機構」が所有するメガソーラーや、住民の自宅屋根に設置された太陽光の余剰電力に代表される地産エネルギーを購入し、地域の公共施設、民間事業所及び一般家庭に販売することでエネルギーの地産地消の実現を目指しています。



主な施策と方向性

「みやまスマートエネルギー」と協働し、エネルギーを軸とした地域課題の解決に取り組みます。

地域のエネルギーの在り方に市が積極的に関わることで、安全安心で持続可能なまちづくりを推進します。

エネルギーの地産地消に取り組んでいることの付加価値として、災害時にも安心して生活できる分散型エネルギーの確保等の整備研究と公共施設の再生可能エネルギー利用 100% (RE100) ※P50を目指します。



市役所の取り組み

再生可能エネルギーの普及

- 住宅用太陽光発電システム、蓄電池を設置する個人及び老朽化したパワーコンディショナを取替える個人の方を対象に補助を実施しています。〔令和2（2020）年度時点〕
- 今後も再生可能エネルギーの普及促進を図り、CO₂排出量の削減を図ります。



エネルギーを視点においた持続可能なまちづくり

- 市民のニーズに沿ったサービスの開発を検討します。
- みやまスマートエネルギーが持つネットワークを生かした新たな地域付加価値の調査研究と施策への反映を行います。
- 再生可能エネルギーを地域で使う取り組みを加速化させるため、蓄電池やEV（電気自動車）を有効活用することでエネルギーの地産地消と地域に最適な交通を含めたモビリティとのあり方を検討します。
- 小中学校への教育を通じた国内最先端のまちづくりの普及啓発を行います。
- 災害時にも安心して生活できるエネルギーインフラの整備研究を行います。



家庭における創エネ・省エネの促進

- 家庭における太陽光発電等の創エネ・省エネ・蓄電池等の促進を進めます。





市民・事業者の取り組み

再生可能エネルギーの普及

- 家庭・事業所におけるエネルギーについて、太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入に努めましょう。



電気自動車・蓄電池等の普及

- 家庭・事業所における電気自動車・蓄電池の導入に努めましょう。



みやまスマートエネルギーへの加入促進

- 地元電力販売企業であるみやまスマートエネルギーからの電力購入を検討しましょう。



取り組みにあたっての指標値

指標項目名	単位	現状	2029
再生可能エネルギー利用率 (公共施設)	%	26.0	地球温暖化対策実行計画において設定
市庁舎の温室効果ガス 排出量	t-CO ₂ /年	5,803	5,587



目標2 資源を賢く使う 循環型の社会づくり

目指すまちの姿

私たちは、プラスチックや雑紙などのごみを分別し、生ごみをバイオマスセンターで肥料やエネルギーとして利用することに取り組みます。バイオ液肥を活用し、農業と地域を豊かにする資源循環型社会を目指します。

① ごみ排出抑制の推進

現状と課題

- 市では環境講演会やリユース食器の活用の推進に取り組み、ごみの発生抑制の推進に取り組んでいます。



環境講演会



リユース食器利用



新聞紙エコバッグ



子どもたちへの環境教育

主な施策と方向性

普及・啓発活動により市民・事業者一人ひとりの意識改革を行い、ごみの排出抑制を推進します。

簡易包装の推進やレジ袋の削減、リターナブルびん^{※P49}の利用など身近にできる減量化活動を推進します。

市民、事業者、市役所との連携により、食品ロスの削減を進めます。



市役所の取り組み

一般廃棄物資源循環基本計画の改定

- 平成25（2013）年11月に策定した一般廃棄物資源循環基本計画の改定を行います。

ごみ減量化の推進

- 「みやま市 資源循環のまち宣言」を具現化します。
- 簡易包装の推進やレジ袋の削減、身近にできるごみ減量化活動を推進します。



食品ロス削減の推進

- 規格外農産物の資源化を検討します。
- 3010（サンマルイチマル）運動※P49の推進による宴会時の食べ残しの削減を推進します。
- 家庭での食品ロス※P49を減らすための普及啓発を進めます。
- 食品ロス削減に取り組まれた個人や団体等に対する表彰制度の導入を検討します。



簡易包装店の推進

- 簡易包装に取り組まれた店舗等に対する表彰制度の導入を検討します。

市民・事業者の取り組み

ごみを出さない計画的な買い物

- 事前に何をかうかなど、計画的な買い物をするこ
とで、ごみを出さないよう努めましょう。
- 簡易包装している店を積極的に選択し、ごみを出さ
ないよう努めましょう。



マイバッグ、マイボトル、マイ箸の使用

- マイバッグ（エコバッグ）、マイボトル、マイ箸を
持参し、日常におけるごみの減量化に努めましょう。

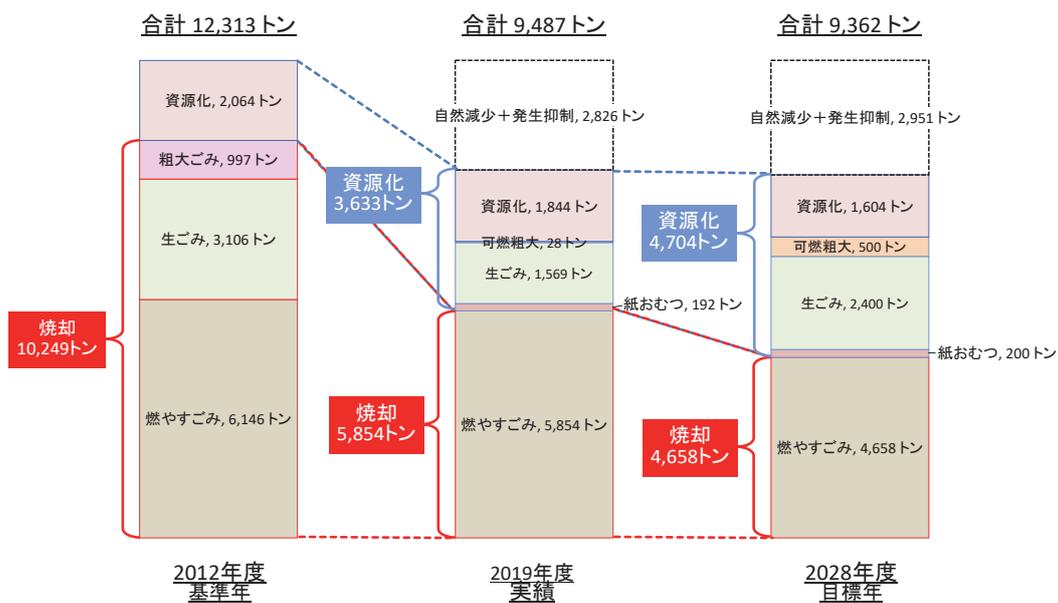


エコバッグを使おう！

② ごみ資源化の推進

現状と課題

- 本市では、「みやま市一般廃棄物資源循環基本計画」を策定し、ごみの資源化に取り組んでいます。



空き缶・びんなど選別



家庭系生ごみ投入

主な施策と方向性

資源ごみの分別を徹底するよう、市民・事業者呼びかけていきます。市民・事業者にとって分かりやすい分別パンフレットや小冊子などを作成します。

ごみ分別による、燃やすごみの削減・資源化に向けて、広報の環境のページによる啓発、環境教育・環境講演会などによる市民の意識の醸成を図ります。



市役所の取り組み

一般廃棄物資源循環基本計画の改定(再掲)

- 平成25(2013)年11月に策定した一般廃棄物資源循環基本計画の改定を行います。

ごみ資源化の推進

- 「みやま市 資源循環のまち宣言」を具現化します。
- 廃プラスチックや雑がみなどの資源化等、身近にできるごみ再資源化活動を推進します。
- バイオマスセンターの稼働により、地球温暖化防止、電力・温熱の生成、ごみ処理のコスト削減、液肥による循環型農業の推進、雇用の促進による地域の活性化を目指します。
- 草・枝の資源回収の検討を行います。
- 市民リサイクル広場の設置の検討を行います。



生ごみ分別の普及 → 分別応援隊の結成

- 分別応援隊を結成し、生ごみの分別・資源化率の向上を図ります。



バイオマス産業都市構想の実現

- 紙おむつの資源化を進めます。
- 廃食用油のBDF化を検討します。
- はたき海苔(低品質海苔)の資源化を検討します。

市民・事業者の取り組み

ごみ分別の徹底

- 積極的に地域の資源回収(リターンブルびん含む)に参加し、ごみの資源化に努めましょう。
- ごみの分別と排出のマナーを守っていきましょう。





③ 資源循環の拠点づくり

現状と課題

- みやま市では、廃校になった小学校のグラウンド跡地にみやま市バイオマスセンター「ルフラン」を建設しました。ルフランとは、仏語で「繰り返し」という意味で、今まで焼却処理していたものを再資源化し、繰り返し使用していかうと気持ちを込めて名付けました。
- ルフランは家庭から出た生ごみ、し尿、浄化槽汚泥をメタン発酵させ、液肥と電気を生み出します。
- 液肥「みのるん」は優れた有機質の肥料として、水稻や麦等の栽培に利用します。液肥で育てた農作物は、食卓に並び、みやま市に資源循環の「環（わ）」ができます。
- 校舎跡地については、教室や校長室等を、食品加工室やカフェ等に改装しました。



ルフラン壁画プロジェクト



ルフランカフェ

主な施策と方向性

人口減少に伴う廃校の増加、行政のごみ処理の問題を解決するためのモデルとして、ルフランを中心とした資源循環型の持続可能なまちをつくり、未来の子供たちが誇れるみやま市の取り組みを世界に発信していきます。

市役所の取り組み

ルフランの活用

- 視察研修室、食品加工所、カフェ、シェアオフィスなど、校舎の利用による賑わいの創出を図ります。



市民・事業者の取り組み

ルフラン各種施設の利用

- ルフランにある食品加工所、カフェ、シェアオフィスなどを利用し、様々な目標にチャレンジしましょう。



取り組みにあたっての指標値

指標項目名	単位	現状	2029
焼却ごみ量	t/年	5,825	4,600
生ごみ・食品廃棄物の資源化量	t/年	1,464	2,500
紙おむつの資源化量	t/年	192	200
廃プラスチックの資源化量	t/年	320	450
廃食用油資源化量	ℓ/年	4,535	6,000
1人1日当たりごみ排出量	g/人・日	666	560
リサイクル率	%	36	45



目標3 健康で快適に暮らせる 生活環境づくり

目指すまちの姿

私たちは、きれいな空気・良好な水環境・適正な空き家管理を通して、市民が健康で心地よく暮らせる生活環境を目指します。

① 良好な生活環境の推進

現状と課題

- 河川等の水質については、一部の河川でBOD^{※P48}が環境基準を超えており改善する必要があります。
- 下水道や農業集落排水、浄化槽は、生活環境を改善し河川や水路などの水質を保全するための重要な生活基盤施設であり、計画的な整備を推進します。
- 交通の利便性は住むところを決めるための大きな条件となっており、誰でも乗ることができるコミュニティバス^{※P49}を運行し、市民及び来訪者の交通手段の確保に努めています。



コミュニティバス(くすっぴー号)

主な施策と方向性

身のまわりの環境をきれいにすることで、みやま市に住む私たちの健康を保全することにつながります。環境への負荷については、事業者のみでなく、市民の普段の行動も影響を与えることから、本市で生活しているみんなで生活環境を保全します。

公共下水道計画区域内の管路整備を進め、供用開始区域の下水道接続率を高めるとともに、浄化槽について浄化槽市町村整備推進事業により生活排水の浄化を図り、計画的かつ効率的な事業の推進に努めます。

鉄道、路線バスを補完する交通機関として、コミュニティバスを運行し必要に応じて見直しを図り、市民及び来訪者の交通手段の確保と利便性の向上に努めます。



市役所の取り組み

監視体制・指導の強化

- 水質状況を把握するため、公共用水域において定期的な水質検査を行い、結果を公表します。
- 生活排水の負荷を減らすため、市民や事業者に対して生活排水の適切な処理についての指導及び普及・啓発を行います。
- 事業者に対して、公害関連法令（騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法等）の遵守指導を行います。
- 近隣住民に迷惑をかけない生活マナーの普及・啓発に努めることで、生活公害に関する苦情がでないまちづくりを推進します。
- 水域への負荷流出を抑制するため、市民・事業者と協力しながら定期的に排水路、道路側溝等の清掃を行います。
- 市民・事業者に呼びかけ、河川の一斉清掃を実施します。

下水道事業の推進

- 矢部川流域関連公共下水道事業を推進します。
- 浄化槽市町村整備推進事業を推進します。



公共交通機関の利便性向上

- コミュニティバス（くすっぴー号）等交通体系を整備します。
- 自動運転移動サービスをはじめとする新たな交通手段導入を検討します。
- 市内幹線道路を巡回・運行するコミュニティバスのニーズに合わせた見直しや利用環境の改善、利用促進策の実施・検証を行います。
- 自動運転技術の導入に向けた検討を進めます。

市民・事業者の取り組み

河川清掃の実施

- 自ら又は地域や行政の呼びかけに応じて排水路、道路側溝等の清掃を行いましょう。また、行政の呼びかけ等に応じて、河川の一斉清掃等に参加しまししょう。

公共交通機関の利用

- 公共交通機関を利用しまししょう。

② 空き家・空き地利用の推進

現状と課題

- 人口及び世帯の減少や、住宅・建築物の老朽化等に伴い、居住その他の利用がなされていない空き家が年々増加しています。平成27（2015）年の調査では市内に859件の空き家等が存在しており、空き家の放置は地域における防犯や生活環境等に影響を及ぼす課題として危惧されています。
- 本市では、平成24（2012）年に空き家バンク制度※P49を導入し、空き家の利活用を推進しています。また、空き家に対する対策を総合的かつ計画的に実施するため平成28（2016）年に「みやま市空家等対策計画」を策定し、市民が安全にかつ安心して暮らすことのできる生活環境の確保に取り組んでいます。今後は、空き家バンク制度の利用促進と「みやま市空家等対策計画」に基づく空き家等の適正管理が必要となります。

主な施策と方向性

「みやま市空家等対策計画」に基づき、空き家等の総合的かつ計画的な対策に取り組み、市民が安心して暮らせる生活環境の確保に努めます。

空き家の適正管理の周知徹底を図るとともに、空き家バンクへの登録を促し、登録数を増やすことで、空き家を市場に流通させて定住促進を進めます。

市役所の取り組み

空き家バンク制度の利用促進

- 空き家バンク制度の利用を促進します。
- 「みやま市空家等対策計画」に基づく空家等の適正管理を促進します。





市民・事業者の取り組み

空き家バンク制度への登録

- 空き家を持っている人は「空き家バンク」に登録しましょう。

取り組みにあたっての指標値

指標項目名	単位	現状	2029
コミュニティバス乗降者数	人/年	46,523	2022年にみやま市地域公共交通網形成計画において検討
矢部川流域関連 公共下水道整備面積	ha	96	210
合併浄化槽設置基数	基	6,201	6,870



目標4 豊かな自然環境を 未来へつなぐ

目指すまちの姿

豊かな自然からの恵みを理解し、将来の世代までその恵みを享受できるよう、生物多様性の重要性を認識し、自然と共生するまちを目指します。

① 自然環境の保全

現状と課題

- 本市には、矢部川をはじめとして、その支流の飯江川、楠田川、大根川が流れています。清水山や御牧山など、森や水に代表される自然環境は本市の大きな財産です。



飯江川でウナギを放流



清水公園からの眺め

- 森林が持つ公益的機能の維持のため、荒廃した森林と判断されたスギ・ヒノキ林約90haの森林において再生事業を行います。森林の健全化とともに、耕作がなされていない竹林の整備を図っています。
- 「花いっぱい運動」を毎年実施し、チューリップや水仙の球根を配布しています。



主な施策と方向性

環境負荷の少ないまちづくりを通して、豊かな水辺環境や美しい田園風景などを保全し、自然と調和した住環境の整備、森林や河川の整備・改修に努めます。



市役所の取り組み

自然環境(緑)の保全

- 貴重な自然環境である古木や大木、樹木、花などを保全し、緑豊かな環境づくりを進めるとともに公共施設の緑化に努め、住民と協働して市域全体の緑化活動を推進します。
- 公園・緑地の維持管理については、地区住民やボランティア団体との協働による維持管理体制づくりを推進していくとともに、関係団体との協定による清掃活動に対する継続支援を行っていきます。
- 森林のもつ公益的機能の重要性を認識し、良好な森林を維持するため、荒廃森林を適切かつ効率的に整備を進めます。



生物多様性の確保

- 自然生態系に配慮した水辺空間の整備及び雑木林や植林を通した緑の再生の推進を行っていきます。
- 身近な自然環境や生きものについて、市民ボランティアの協力による定期的な調査を実施します。
- レッドデータブック※P50記載種については、学識経験者等のアドバイスを受け、保全対策を検討します。



市民・事業者の取り組み

自然環境(緑)の保全

- 川の清掃活動や森林の維持管理活動等、地域の活動やボランティア活動に積極的に参加しましょう。
- ホタルが住む環境づくりを目指しましょう。

② 農村環境・歴史的財産の保全

現状と課題

- 人口減少・超高齢社会の中で、第1次産業従事者の高齢化や担い手・後継者不足が本市でも深刻化しています。
- 農業・農村環境保全では、有害鳥獣から農産物の被害を防止する対策として、猟友会と連携して有害鳥獣の駆除や侵入防護柵を設置し、対策強化に努めていますが、地元猟友会の高齢化や後継者不足の課題を解決する必要があります。
- バイオマスセンターから生成される液肥を有効活用し、安全で安心な高付加価値の農産物を生産するため、液肥の需要と供給のバランスを保ち生産者からの要望に応えられるシステムの構築が急務となります。
- 本市には、全国で唯一継承されている国指定重要無形民俗文化財の「幸若舞」をはじめ、「新舟小屋のクスノキ林」「カササギ※P50生息地」などの国指定文化財8件、また、県指定無形民俗文化財の「寶満神社奉納能楽（新開能）」、県指定有形文化財の「清水寺三重塔」など、県指定文化財を13件有しています。



文化財指定：国指定天然記念物
(新舟小屋のクスノキ林)



文化財指定：国指定天然記念物

- 国及び県指定文化財を合わせ21件は県内でも有数であり、多種多様な文化財や伝統芸能が残っています。

主な施策と方向性

本市の基幹産業である農漁業を若者や女性にも魅力ある産業としていくため、他の産業と連携して生産性を向上させるなど成長産業化を推進します。農商工連携や6次産業化、また戦略作物による高収益型農業の推進など付加価値の高い農業の確立により、新たな雇用となる新規就農者や農業後継者の育成につなげます。

歴史・文化遺産の保存・公開により、市民が多種多様な文化財に触れることができるような施策を推進します。



市役所の取り組み

農業生産基盤の整備

- 農業用施設などの整備を進め、効率的な農業生産基盤の向上や環境保全を推進するとともに、農村の環境整備のため、生産基盤の整備と一体的な生活環境の整備の一層の推進を図ります。
 - ・園地整備等による生産基盤の充実・強化
 - ・土地改良施設維持管理適正化事業の継続
 - ・中山間地域の耕作放棄地等遊休農地解消対策の継続・推進
 - ・「多面的機能支払事業」による環境保全の推進
 - ・有害鳥獣対策の強化

地産地消の推進

- 「安全・安心・おいしい」みやまの農産物を生かし、地産地消につながる取組を進めます。
 - ・地産地消を踏まえ、減農薬、減化学肥料による農業など環境に配慮した生産の推進
 - ・農産物加工講座の開催など地元農産物利用による加工品づくりの支援
 - ・地元食材を通じた食育の充実

みやまブランドづくりの推進

- みやまの特産品である、ナス、セロリ、イチゴ、ミカン、スモモ等をみやまブランドとして確立します。
 - ・消費者との交流による情報の収集や発信
 - ・地元農産品、規格外農産品など農産加工品等ブランド開発研究や生産指導体制づくりへの支援
 - ・「晴れのまちみやま野菜」ブランディング事業の推進
 - ・加工グループの育成及び技術向上の取組支援

都市と農村の交流推進

- 都市と農村の相互理解を深め、「人・もの・情報」の行き来を活発にするため、「清水山荘」を中心とした農業体験や自然体験など滞在型の活動を推進します。
 - ・「清水山荘」を活用した体験農業プログラムの推進
 - ・グリーンツーリズム※P48の推進

特産品販売所の活性化

- みやまの農産物を原材料とした加工品の開発・製造や直売、販路開拓、レストラン提供等一体的な取組により、6次産業化を推進します。
 - ・消費者ニーズに合った生産・加工の推進
 - ・6次産業化の推進
 - ・道の駅みやまの情報発信機能強化

文化財の保護・保存

- 市内の歴史・文化遺産の保存・公開をすることにより、市民が多種多様な文化財に触れ、鑑賞できる資料館整備を促進します。
 - ・歴史資料館の整備
 - ・市内文化財めぐりや地域資源に関する講座等の開催
 - ・市内に埋もれている貴重な文化財の調査や研究等の推進

市民・事業者の取り組み

地元農産物の購入

- なるべく地元農産物を購入し、地産地消の推進への貢献を目指しましょう。

農薬・除草剤を減らす

- 農産物の生産や家庭菜園を行う際は、なるべく農薬や除草剤を使わないよう心がけましょう。



取り組みにあたっての指標値

指標項目名		単位	現状	2029
河川・水路の水質改善	(A類型: BOD2mg/L以下)	箇所	32件中、 7件基準超過	基準超過を無くす
	(B類型: BOD3mg/L以下)	箇所	12件中、 2件基準超過	基準超過を無くす
不法投棄パトロールにおける回収量		kg/年	6,721	5,000未満
花いっぱい推進事業参加団体数		団体数	115	150

目標5 市民一人ひとりが 環境を考え行動する

目指すまちの姿

資源循環の教育を通して「みやま版もったいない」の心を育てることに取り組みます。この理念を共有する世界の人々と手をつなぎ、循環によるまちづくりの輪が広がる社会を目指します。

① 環境教育の推進

現状と課題

- 環境教育の一環として、市民の方を対象に「ごみ出しルール」、「生ごみ資源化」、「エネルギーの地産地消」、「再エネ活用セミナー」などをテーマにした生涯学習まちづくり出前講座を行っています。
- また、小中学校を対象に、環境学習（出前授業）を実施しています。

生涯学習まちづくり出前講座メニュー 令和2(2020)年度版

メニュー	内容
身の回りのごみはどこへ行く	ごみ出しルールを分かりやすく説明します
バイオマスセンターの仕組み	生ごみの資源化で循環の輪をつくろう
エネルギーの地産地消の取り組み	グッドデザイン金賞を受賞した市の取り組みについて
あなたのお家の再エネ活用セミナー	太陽光発電や蓄電池など、再エネを活用し、地球に優しく、そして賢く電気を使う方法(本講座は、みやまスマートエネルギー(株)と共催になります。)



環境学習



環境学習



主な施策と方向性

環境負荷低減を進める上で、持続可能な生産と消費は非常に重要なテーマです。これを推進するためには、市民一人ひとりの意識や行動を見直す必要があります。省エネや3R（Reduce：減らす、Reuse：再使用、Recycle：再資源）の徹底など、市民対象の環境教育などを行うことで、この流れを加速させる必要があります。

市役所の取り組み

環境教育の推進

- 学校をはじめ、様々な場における環境教育や環境学習の取組の強化を図ります。
- イベントの開催をはじめ、環境問題について考える機会の場の提供や出前講座の開催などにより、環境保全意識の向上を図ります。
- 環境にやさしいライフスタイルの普及啓発に努めます。また、環境の先進自治体等との交流を通じて、環境保全活動の中心となる人材育成を図ります。
- 世代間の交流をはかり、年長者の技や知恵を子どもたちに伝えることができる環境を整備します。

調べる学習の支援

- 学校をはじめ、様々な場における調べる学習の取組の推進を図ります。
- 児童生徒が行う調べる学習に対し、環境分野の専門家のアドバイスや施設見学等の支援を推進します。

市民・事業者の取り組み

環境について子どもたちと共に学び拡げます

- 未来に良い環境を繋ぎましょう。
- 「もったいない」気持ちを育みましょう。

② 市民協働のまちづくりの推進

現状と課題

- 共通の目標に向かって共に進める地域協働型のまちづくりへの転換が求められています。
- 本市では、これまでも市民との協働により、さまざまな分野において施策を実施してきました。今後は、市の重要施策をはじめ、「資源循環型社会のまちづくり」の実現に向けた新電力事業やバイオマス事業など、より一層の住民との協働が求められています。
- 新電力事業では、事業所等の新電力への切り替えは多いものの、市民の新電力への移行はまだ少ない状況です。市民への啓発等により事業に対する理解の深化を促し、地域と行政が一体となってエネルギーの地産地消の実現を目指す必要があります。
- 各種計画の策定段階ではワークショップを実施しています。今後は、住民参加型会議や誰もが参加できるワークショップの手法の検討など、更に幅広い市民の意見を聴取できるような仕組みづくりが必要です。
- また、市民と行政の協働による魅力あるまちづくりを推進するため、まちづくりに関する事業に主体的に取り組む団体に対し「市民協働まちづくり事業補助金」を交付しています。更なる協働のまちづくりを進めるために、NPO法人等の育成に努めるほか、補助制度の積極的な利用を促進していく必要があります。



主な施策と方向性

市民やボランティア団体、NPO法人が主体的に協働のまちづくりに取り組めるよう、市民協働まちづくり事業補助制度の活用を推進するとともに、若い地域リーダーの人材育成に努めます。そして、地域コミュニティの活性化や市民と行政の協働によるまちづくりを推進します。

市役所の取り組み

市民協働によるまちづくりの推進

- 環境保全活動について情報提供し、参加を促進するとともに、市民などの自主的で公益的な環境保全活動を支援します。
- 地区住民やボランティア団体による環境管理体制づくりを推進していきます。
- 近隣市町などと連携し、環境保全施策に取り組みます。
- 協働の場となるワークショップや各種団体との懇談会等を実施します。
- 環境に関する情報の提供や政策検討過程における情報を広報紙、ホームページ等の媒体を通じてわかりやすく提供します。
- 環境に関する新たな取り組みや広報活動を検討し、地域活性化につながる取組を進めます。
 - ・バイオマスセンターバスツアーの実施
 - ・ゼロ・ウェイストアカデミー※P50の設立支援
 - ・ゼロ・ウェイスト店の表彰
 - ・英語ホームページで海外ファンづくり
 - ・地域おこし協力隊の活用



市民・事業者の取り組み

市民協働によるまちづくりへの参画

- 環境保全活動の実施に協力し、応援を行いましょよう。
- みやま市の取り組みを他地域の知人に伝えていきたいと思います。

第 4 章

[計画の進め方]

1 計画の推進方法

点検と評価

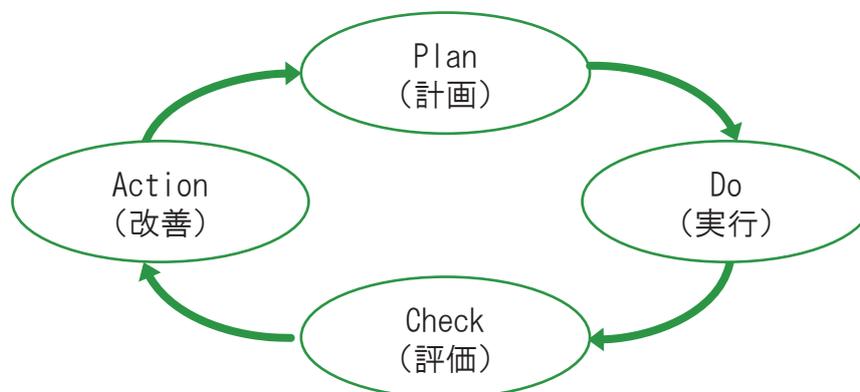
本計画の理念や方向性を広め、みやま市の環境行政を着実に進めるために、みやま市で実施している行政経営体制（PDCAサイクル）により各施策との連動を図り、本計画を踏まえた経営目標の作成、事務事業評価の実施を行い、各施策の達成状況を把握していきます。

他者との連携

環境問題は市内で完結するものではありません。より広域的な視点に立って対策を行うことが必要です。本計画の目的・目標を達成するため、国や県、その他の自治体との積極的な連携や情報の共有を図っていきます。また、更なる推進のためにも各種補助金の活用を積極的に検討していきます。

計画の見直し

社会情勢の大きな変化や環境保全に係る新たな課題の発生など、現時点で想定されないことに対応する必要がある場合、適時適切に計画を見直すこととします。



參考資料

用語集

■ S D G s (エス ディー ジーズ)

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標であり、持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。



■ パリ協定

国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（C O P 2 1）で採択された温室効果ガス排出抑制に向けた国際的枠組み。世界共通の長期目標として、産業革命後の世界の平均気温の上昇を 2°C以内（努力目標1.5°C）に抑えるため、全ての国がその実現に向けた排出抑制目標を定め、野心的な取組を実施し、地球温暖化を緩和していくことが定められています。

■ ESD

ESD（Education-for-Sustainable-Development）とは、環境、貧困、人権、平和、開発といった、現代社会の様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そして、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動のことを指します。

用語集

■ ESG投資

環境（Environment）や社会（Social）、企業統治（Governance）に配慮する企業を重視して行う投資のことを言います。

■ ゼロカーボンシティ

「2050年に温室効果ガスの排出量又は二酸化炭素を実質ゼロにすることを目指す旨を首長自らが又は地方自治体として公表された地方自治体」のことです。

■ グリーンツーリズム

農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動のことで、滞在期間は、日帰りから、長期又は定期的・反復的な（宿泊・滞在を伴う）場合まで様々です。

■ 地域循環共生圏

「地域循環共生圏」とは、各地域が美しい自然景観等の地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方です。

「地域循環共生圏」は、農山漁村も都市も活かす、我が国の地域の活力を最大限に発揮する構想であり、その創造によりSDGsやSociety 5.0の実現にもつながるものです。

「地域循環共生圏」の創造による持続可能な地域づくりを通じて、環境で地方を元気にするとともに、持続可能な循環共生型の社会を構築していきます。

■ サーキュラーエコノミー

従来の「大量生産・大量消費・大量廃棄」のリニアな経済（線形経済）に代わる、製品と資源の価値を可能な限り長く保全・維持し、廃棄物の発生を最小化した経済を指します。

■ エシカル消費

消費者それぞれが各自にとっての社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援しながら消費活動を行うことを指します。

■ BOD（生物化学的酸素要求量）

微生物が有機物を分解するときに消費する酸素量です。汚染が大きいほど微生物が活発になり、多くの酸素を消費して分解するため、数値が大きくなります。河川では、工場排水、生活排水などの流入によってBODの値が上昇します。

用語集

■ マイクロプラスチック

海を漂流・漂着するプラスチックごみは、時間が経つにつれ劣化と破碎を重ねながら、次第にマイクロプラスチックと呼ばれる微細片となり、漂流の過程で誤食により海洋生物の体内に取り込まれることが知られています。



■ リターナブルびん

リターナブルびんは、返却、詰め替えをすることによって、何度も使用できる容器です。

「リユースびん」や「活きびん（生きびん）」と呼ばれることもあります。

何度も繰り返し使用されるリターナブルびんは、原料や製造にともなうエネルギーを削減することができるため、環境に優しい容器です。回収率が高いほど、使用回数が多いほど、環境負荷は低くなります。

■ 食品ロス

本来食べられるのに捨てられる食品のことです。日本の食品廃棄物等は年間2,550万トン、うち食品ロスは612万トンであり、国連世界食糧計画（WFP）による食料援助量（約390万トン）の1.6倍となっています。

● 食品ロスの内訳

◎事業系：328万トン（54%）、◎家庭系：284万トン（46%）

■ 3010（サンマルイチマル）運動

3010運動は、宴会時の食べ残しを減らすためのキャンペーンで、＜乾杯後30分間＞は席を立たずに料理を楽しみましょう、＜お開き10分前＞になったら、自分の席に戻って、再度料理を楽しみましょう、と呼びかけて、食品ロスを削減するものです。職場や知人との宴会から始めていただき、一人ひとりが「もったいない」を心がけ、楽しく美味しく宴会を楽しみましょう。

■ コミュニティバス

みやま市では、コミュニティバス「くすっぴー号」を平成30年3月1日より運行しています。「くすっぴー号」は、決まった時刻に決まったルートを運行する、誰でも利用できるコミュニティバスです。

■ 空き家バンク制度

市内にある売却や賃貸を希望されている空き家・空き地の情報を、みやま市に住みたいとお考えの方に提供し、みやま暮らしを応援する制度のことです。

用語集

■ 調べる学習

公益社団法人図書館振興財団が調べる力を育てることを目的に行っているコンクール。生涯を通じて学ぶための大きな力となり、様々な情報から自らが必要とする情報の集め方、取捨選択の仕方を身につけ、「生きる力・考える力」を養うことを目的としています。

■ 上勝町ゼロ・ウェイストアカデミー

(特定非営利活動法人 ゼロ・ウェイストアカデミー)

四国で一番小さな町、徳島県上勝町は、未来の子どもたちにきれいな空気やおいしい水、豊かな大地を継承するため、2020年までに上勝町のごみをゼロ（ゼロ・ウェイスト）にする「ゼロ・ウェイスト宣言」を2003年に日本で初めて行いました。

わたしたちゼロ・ウェイストアカデミーは、そんな上勝町のゼロ・ウェイストの理念に基づいて3R（Reduce, Reuse, Recycle）活動を住民や行政と一緒に町内で推進することはもちろん、環境に配慮できる人材育成、ゼロ・ウェイストな商品開発、活動推進のための調査・研究、そして一緒に取り組む仲間を世界中につくることに取り組んでいます。

■ クールチョイス（COOL CHOICE）

「COOL CHOICE」とは、2030年度に温室効果ガスの排出量を2013年度比で26%削減するという目標達成のため、脱炭素社会づくりに貢献する製品への買換え・サービスの利用・ライフスタイルの選択など、地球温暖化対策に資する「賢い選択」をしていこうという取組のことで。

■ RE100

RE100とは、企業が自らの事業の使用電力を100%再エネで賄うことを目指す国際的なイニシアティブのことをいい、世界や日本の企業が参加しています。

■ レッドデータブック

レッドデータブックとは、絶滅のおそれのある野生生物に関する保全状況や分布、生態、影響を与えている要因等の情報を記載した図書のことで。

■ カササギ

おもに平坦な田畑や村落のあちらこちらに生育しています。頭部から背部は黒色で光沢が強く、胸および脇等は純白色の留鳥であり、国指定天然記念物です。

策定スケジュール

7/30 (木)	環境基本計画 検討委員会	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・第1次みやま市環境基本計画の実施状況報告 ・第2次環境基本計画基本方針（案）説明 ・環境基本計画策定スケジュール説明
8/5 (水)	環境審議会	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・第1次みやま市環境基本計画の実施状況報告 ・第2次環境基本計画について諮問 ・第2次環境基本計画基本方針（案）説明 ・環境基本計画策定スケジュール説明
8/29 (土)	ワークショップ	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・坂野晶氏による基調講演 ・みやま市の取り組み紹介 ・第2次環境基本計画基本方針（案）説明 ・ワークショップ
9/12 (土)		第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ続き ・意見とりまとめ
10/9 (金)	検討委員会	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次環境基本計画（素案）審議（ワークショップ集約報告）
10/16 (金)	環境審議会	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次環境基本計画（素案）審議（ワークショップ集約報告）
12/14 (月)	検討委員会	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次環境基本計画（素案）について
12/21 (月)	環境審議会	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次環境基本計画（案）審議
2/2 (火) ~ 2/22 (火)	パブリックコメント実施		
3/5 (金)	環境審議会	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次環境基本計画確認

みやま市環境審議会委員

所属団体	氏名	職名
みやま市議会	村上 義徳	みやま市議会議員
みやま市議会	末吉 達二郎	みやま市議会議員
みやま市議会	○ 中尾 眞智子	みやま市議会議員
みやま市農業委員会	徳永 順子	みやま市農業委員会 会長
みやま市商工会	菅原 竜介	みやま市商工会 理事
みやま市食生活改善推進協議会	塚本 八重子	みやま市食生活改善推進協議会 会長
みやま市区長会	吹春 慶一	みやま市区長会 校区会長
みやま市環境衛生組合連合会	末吉 永和	みやま市環境衛生組合連合会 会長
南筑後農業協同組合	末吉 健治	南筑後農業協同組合 理事
高田漁業協同組合	永江 知子	高田漁業協同組合女性部部長
柳川山門医師会東部支部	菊池 陽介	柳川山門医師会 理事
大牟田医師会高田ブロック	中村 照	大牟田医師会 副会長
循環のまちづくり研究所	◎ 中村 修	元長崎大学環境科学部准教授
地球温暖化防止活動推進員	石橋 千鳥	地球温暖化防止活動推進員
福岡県南筑後保健福祉環境事務所	高尾 康裕	南筑後保健福祉環境事務所環境長
公募委員	田中 與志隆	
公募委員	田中 但	

備考)◎:環境審議会会長、○:環境審議会副会長

第2次みやま市環境基本計画 検討委員会構成員

役職	職名	氏名
委員長	副市長	宮崎 敬介
委員	環境経済部長	坂田 良二
	企画振興課長	木村 勝幸
	財政課長	大坪 康春
	建設課長	城戸 邦宏
	都市計画課長	松尾 秀勝
	上下水道課長	甲斐田 裕士
	農林水産課長	宮崎 眞一
	商工観光課長	猿本 邦博
	エネルギー政策課長	古田 稔
	環境衛生課長	松尾 和久
	教育総務課長	堤 則勝
	学校教育課長	藤吉 裕治
社会教育課長	山田 利長	

ワークショップ結果報告

第1回 スケジュール・参加者

【スケジュール】

13:30～13:35	開会
13:35～13:40	市長あいさつ
13:40～14:40	坂野晶氏講演(質疑応答10分)
14:40～15:10	みやま市の取り組み紹介(松尾課長、江崎氏)
15:10～15:20	休憩
15:20～16:40	ワークショップ(発表20分)

【環境基本計画策定 第1回ワークショップ 参加者】

数	1班	2班	3班	4班	5班
1	毛利 睦子	徳永 順子	宮崎 照枝	中村 修	渡邊 満昭
2	中尾 眞智子	片桐 けい子	吹春 慶一	壇 信廣	柿原 智子
3	岩屋 美紀	吹春 孝子	池田 鈴子	管原 百合子	石橋 千鳥
4	田中 とし子	高田 學	齋藤 栄子	野田 美澄	太田黒 靖之
5	大塚 力弥	松野 慎一	田中 徳光	吉永 博徳	野村 あや子
6	近藤 ひとみ	小柳 充生	野間 善正	荒木 彩	内野 良隆
7	田中 興志隆	井口 由佳	柴藤 さゆり	山田 愛美	
職員	坂田・副島	江崎・孝弘	伊豆丸・廣重	平田・山下	吉開・古田

課題解決に向けた目標 (模造紙へ記載済み)

目標1：低炭素社会の実現に向けた取り組み

地域内資源の循環：生ごみの資源化

目標2：豊かな自然環境を未来へつなぐ

ホタルの舞う川など、みやまの豊かな山・川・農地・海を守り育てる

目標3：資源を賢く使う循環型の社会づくり

ごみを出さない仕組みづくり (マイバッグ、簡易包装)

目標4：健康で快適に暮らせる生活環境づくり

空き家、空き地の適正管理

目標5：市民一人ひとりが環境を考え行動する

将来を担う子どもたちへの環境教育、“もったいない”心を育てる

二酸化炭素
の排出が少
ない社会

課題解決にはどうしたら・・・上勝町や町田市の取り組みを参考にワークショップで大いに発言し、アイデアを出し合いましょう！

坂野氏の講演状況



ワークショップの実施状況



坂野氏講演の内容

・みやま市が環境基本計画を見直すうえで、世界ではどんなことが起こっているかの講演内容であった。

【気候変動問題】

- ・「2050年日本の天気は？」という題材のNHKの動画説明があった。このままのペースでCO2を排出し続けた場合、2050年には、スーパー台風の発生、紅葉がクリスマス時期になるなど、大きく気候変動が起こる予測である。
- ・日本の平均気温は、産業革命以後1℃上昇し、今世紀中に5.4℃上昇する可能性がある。
- ・世界的にみると、地球温暖化により、気象異常が起こり、干ばつ、海面上昇など、自然異常が増加している。
- ・食料では、温度が1℃進むごとに収穫高が、トウモロコシ-7.4%、小麦-6%、米-3.2%、大豆-3.1%で減少する予測。
- ・10億人に上る気候移民が生まれる可能性がある。世界的にはアフリカ諸国を中心に人口が増加する予測である。

【ごみ問題】

- ・2050年までに世界のごみは70%増加の予測である。しかし、ごみ処理施設のインフラが整っていないため、海洋プラスチックごみを生み出していることや環境汚染問題に繋がっている。
- ・アースオーバーシュートデイ(1年間で地球が再生産できる資源の量の限界が来る日:簡単に言うと一年間の木が何センチ伸びるか)という考え方があり、1970年頃までは、うまく行っていた。以降早まり、2020年の日本を見た場合、2020/5/12に資源を消費し、来年の資源を前借りしている状況にある。
- ・世界の資源消費量は増加し続け、1970年で267億トン、2017年で920億トン、2050年で1,840億トンの見込みである。
- ・このペースでごみが増え続けると2050年には、海中に魚よりプラスチックの方が多くなる(重量比)

【気候変動・ごみ問題対策】

- ・SDGsについて、政府だけで取り組むという訳ではなく、企業はもちろん、個人一人ひとりが皆で取り組む必要がある。
- ・気候変動については、パリ協定において2030年までに世界全体の気温上昇を1.5℃未満に抑える必要がある。
- ・資源(ごみ)については、これまでリニアエコノミー(使ったものをすぐ捨てる)であったものを、サーキュラーエコノミー(循環型の経済)に切り替え、資源量も減らしつつ、廃棄物処分量を最低限にする必要がある。

坂野氏講演後の質疑応答

【質問】

上勝で頑張っておられ、今回大きな理念と世界の大きな話をさせていただいたが、地域でそれを形にしていた時の大変さとか、良かった点、地域の中で積み上げた点などをいくつか教えて欲しい。

【回答】

- ・皆が何により重きを置いて、みやま市で何をどう頑張ってみようかが一番重要と思っている。
- ・地域でやること、個人でやることはすべて世界に直結している。
- ・普段やっていることが気候変動を食い止めることにどれだけ貢献できているかあまりイメージが持てない。
- ・例えば、生ごみをこれだけ燃やさなくて良かったとか、CO2がどれだけ出さずに済んだかとかは簡単に計算ができる。
- ・みやまで取り組んだ量は微々たるものかも知れないが、それがちゃんとみやまでできた。私たちの場合では上勝でできた。
- ・やればできるということを伝えるのが非常に重要だったなと思っている。
- ・国単位であれ、個人単位であれ、継続性が重要である。
- ・ゴミを出さないということが重要であるため、地域の飲食店と協力して、包装材を減らした売り方を一緒に挑戦してみようとかやっていた。地道なことであるが、地域の中で限られた人たち、限られた資源の中、どこどこを繋いだらうまく行くのかを試行錯誤し続けたと思っている。
- ・これだったらうまく行ったというのを他の地域の皆様に伝え、仲間を増やし、最終的な効果を上げるというような形になれば良いと思っている。

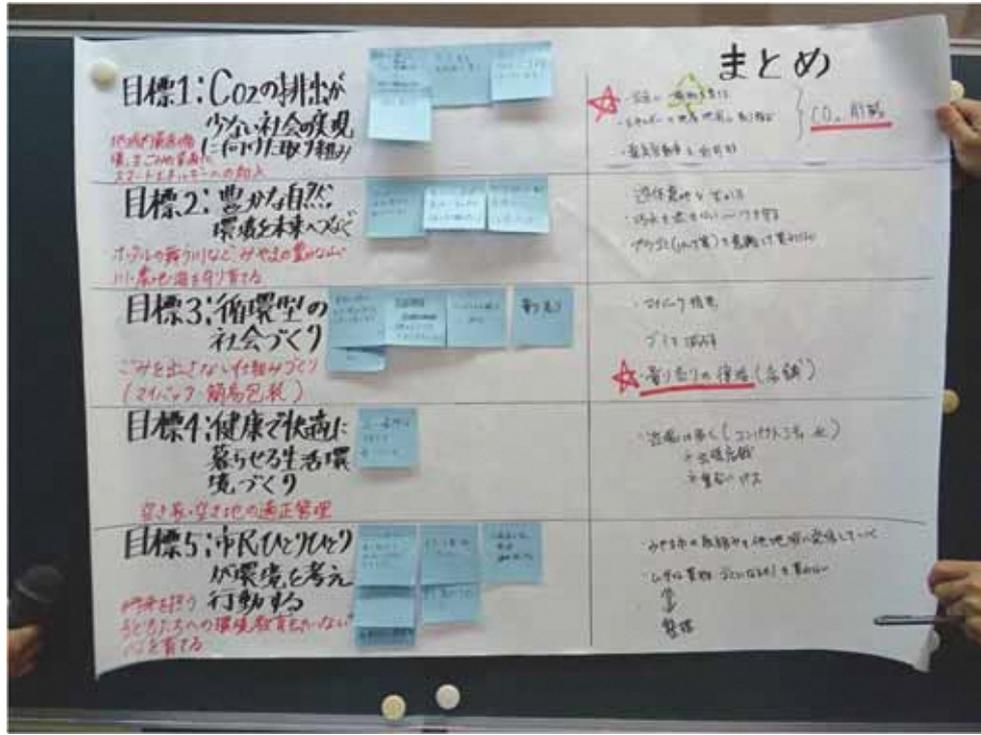
【質問】

何でもするという時に、自分で思わないとできない、上からこうしなさいと言ってもできない。皆さんに伝えていくのに良い方法があったら教えて欲しい。

【回答】

- ・伝える人が何が大事かを伝えるかによって、以外ととりあえずやってみようかと思う方が多かったりする。
- ・例えば、環境の目標設定とかでも、人から言われて一日シャワーの水の出す量を決めてやっても、自分一人では続かない。
- ・家の中で、親子で両親とお子さんとかでみんなで決めて、これを誰が一番守れたか表彰しようとか、一緒に誰かと挑戦すると良いと思う。
- ・より分かりやすくモチベーションを持ってもらうという意味で、何か溜まったら交換できるからうれしいだけではなくて、例えばポイントがたまっていくやっただけに見える化などの仕組みが良いと思う。参加したいような気持ちができるような仕組みが重要。
- ・みやまの人たちがどういうことに良いなと思うのか、共感してやっていこうか。寄り添う形でその人がどうやったら動いてくれるのか考えられると良いかなと思う。

ワークショップの発表内容



各班とりまとめ

目標	1班	2班	3班	4班	5班
1	<ul style="list-style-type: none"> マイボトルの使用 電力使用量を減らすために早寝 グリーンカーテン 電気自動車を買う 公共交通機関の維持 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭に植物を育てる エネルギーの地産地消に取り組む 電気自動車を利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> スマートエネルギーに加入 近場は、車に乗らずに歩く、または自転車 市の公用車を電気自動車にする 	<ul style="list-style-type: none"> 電気自動車を購入したり、リースしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 家電のムダ使いをなくす。 再生可能エネルギーの普及
2	<ul style="list-style-type: none"> 災害のない町 	<ul style="list-style-type: none"> 遊休農地を生かす 汚水を流さない。川を守る プラごみ(パック等)を意識して買わない 	<ul style="list-style-type: none"> 合成洗剤を使わない 油を流さず、再利用する 山にごみを捨てない 環境について学習会をするor参加する 	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷の低い農業の普及 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の環境美化をススメる！！ 農業や除草剤の使用量を減らす(液肥利用の推進)
3	<ul style="list-style-type: none"> エコバッグの使用 簡易包装をしてある店を選択 食品ロスを減らす 食物の再利用をする(スイカの皮等) 多様なバイオマス資源の活用 	<ul style="list-style-type: none"> マイバッグ持参 ごみを減らす 量り売りの復活(店舗) 	<ul style="list-style-type: none"> マイバッグ、マイボトルを使う 食品ロスを減らす(食べ残さないなど) 簡易包装の商品を買う 使わなくなったものはリメイクする。 地産地消 物を最後まで使う 	<ul style="list-style-type: none"> 不要なものは断る 	<ul style="list-style-type: none"> マイボトル、マイバッグ等の利用の推進 イベント等でのリユース食器の使用をすすめる ごみ分別の徹底の推進 「循環」を知る！！
4	<ul style="list-style-type: none"> 空き家を利用して移住者のためのおためし住宅を作る 空き地利用(野菜作り) 野焼きの禁止 	<ul style="list-style-type: none"> 近場は歩く(コンパクトシティ他) ※出張店舗 ※乗合いバス 	<ul style="list-style-type: none"> 空家を持っている人は「空き家バンク」に登録する 空家をいいの場に再生する。 地域食堂にする 	<ul style="list-style-type: none"> 地元の環境負荷の低い農産物を食べる 	<ul style="list-style-type: none"> 共助の心を育む(助け合い) シェアcar・シェアチャリ、コミュニティバスの利用
5	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達の教育 	<ul style="list-style-type: none"> みやま市の取組みを他地域に発信していく ムダな買い物・ごみになるものを買わない ⇓ 整理 	<ul style="list-style-type: none"> 親子で環境について学習する。 昔の人の暮らしを子ども達に伝える。 この会で出合ったことを実践する。 環境保全活動をしている人やグループを応援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動や学習で次世代により良い環境について発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「もったいない！！」その気持ちを持つ(食べ残しや廃棄など) ごみ処理コストを意識する。

第2回 スケジュール・参加者

【スケジュール】

- 13:30～13:40 本日のワークショップについて(事務局説明)
 13:40～14:10 みやま市環境審議会委員長 中村 修 氏
 みやま市環境衛生課長 松尾 和久 氏
 14:10～15:00 グループワーク 実現させるためのアイデアについて
 将来像の標語について(投票)
 15:00～15:10 休憩
 15:10～16:00 発表

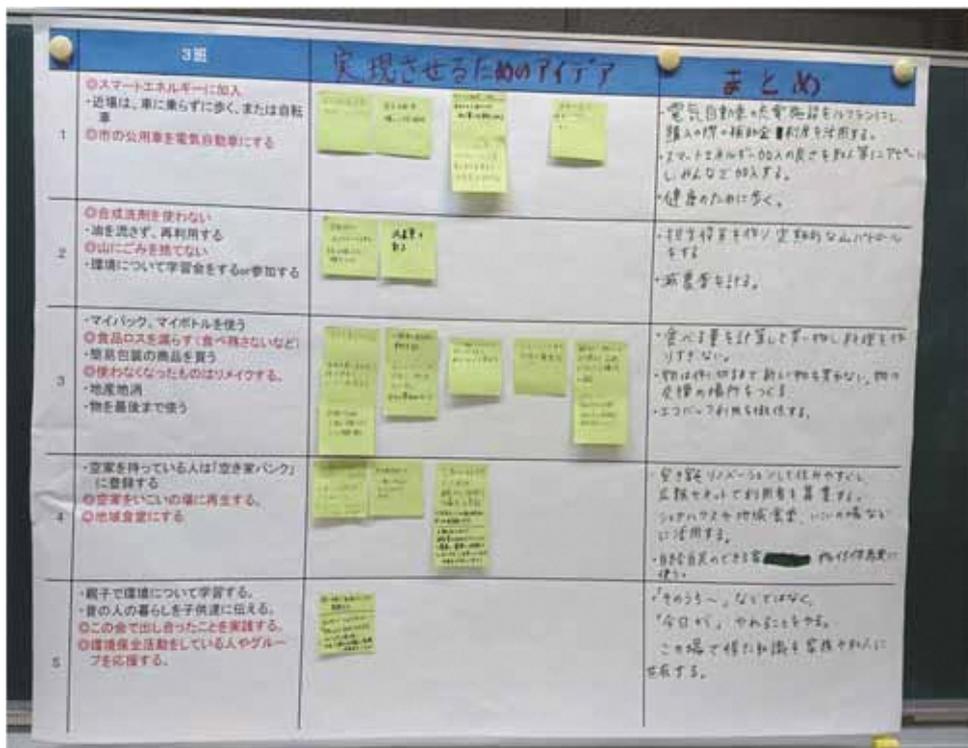
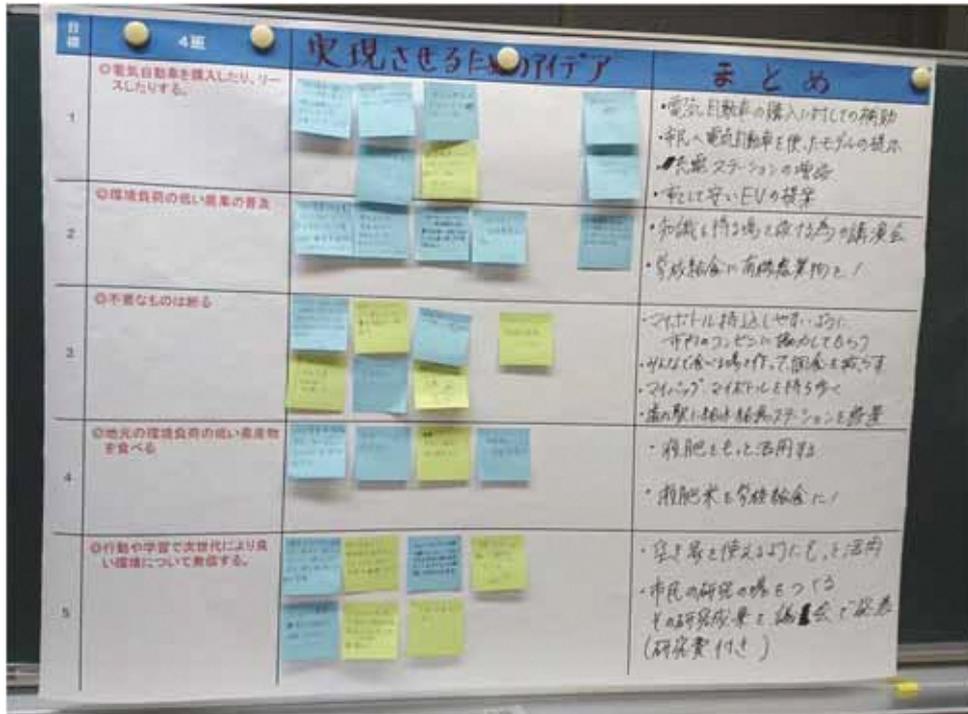
【環境基本計画策定 第2回ワークショップ 参加者】

数	1班	2班	3班	4班	5班
1	毛利 睦子	徳永 順子	宮崎 照枝	中村 修	渡邊 満昭
2	中尾 眞智子	片桐 けい子	吹春 慶一	壇 信廣	柿原 智子
3	岩屋 美紀	吹春 孝子	池田 鈴子	管原 百合子	石橋 千鳥
4	田中 とし子	高田 學	齋藤 栄子	野田 美澄	太田黒 靖之
5	大塚 力弥	松野 慎一	田中 徳光	吉永 博徳	野村 あや子
6	近藤 ひとみ	小柳 充生	西山 勝司	荒木 彩	内野 良隆
7	田中 興志隆	井口 由佳	柴藤 さゆり	山田 愛美	中尾 智子
8	野間 善正				
職員	坂田	江崎	伊豆丸・廣重	平田	吉開・古田

ワークショップの実施状況



ワークショップでの模造紙



各班とりまとめ

目標	1班	2班	3班	4班	5班
1	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンカーテンの教室開催 ・グリーンカーテンの効果を表示 ・多くの方に出品してもらう ・ポイント制→市内通貨として使用 ・コミュニティバスと公共の連携 ・レンタル自転車の効率UP 	<ul style="list-style-type: none"> ※みやま市が保有する電気を各家庭に配電する。 ※ふるさと納税のメニューに電気と液肥を入れる ※各家庭に植物を育てるための苗(グリーンカーテン)を配布する 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気自動車の充電施設をルフランにし、購入の際の補助金制度を活用する。 ・スマートエネルギー加入の良さを知人等にアピールし、みんなで加入する。 ・健康のために歩く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気自動車の購入に対する補助 ・市民へ電気自動車を使ったモデルの提示 ・充電ステーションの増設 ・市として安いEVの提案 	<ul style="list-style-type: none"> ①家庭内電力のモニタリング見える化!! ②再エネ由来の電気料金に変える ③コンパクトハウスをつくる!!
2	<ul style="list-style-type: none"> ・山間部の手入れ、空き地の管理 ・防災組織を充実させる ・事前対策 	<ul style="list-style-type: none"> ※遊休農地を整備して6次化までセットで整備し、学生等に無料開放する(免疫カアップの植物) ※エキナセアの女性 ※遊休農地バンクを作り(ネット・マップ)一目で分かる仕組みづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当役員を作り、定期的な山パトロールをする。 ・減農薬を計る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識を得る場を設けるための講演会 ・学校給食に有機農産物を! 	<ul style="list-style-type: none"> ②液肥で育てた野菜をブランド化して、道の駅で販売する ①環境美化の制度化
3	<ul style="list-style-type: none"> ・エコ店舗認定ステッカー(のぼり)ポイントカード、リストアップ ・林地残材のチップ化、燃料化 ・もやすゴミ箱の横に雑紙入れを設ける→ゴミ減へ 	<ul style="list-style-type: none"> 世界的ハイブランドエコバッグの配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・食べる量を計算して買い物し、料理を作りすぎない。 ・物は使い切るまで新しい物を買わない。物々交換等の場所をつくる ・エコバッグ利用を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マイボトルを持ちやすいように市内のコンビニに協力してもらう ・みんなで食べる場を作つて、個食を減らす ・マイバッグ、マイボトルを持ち歩く ・道の駅に給湯・給水ステーションを設置 	<ul style="list-style-type: none"> ①ごみ出しアプリを活用する ②環境循環についての学習をすすめる(Jr.エコサポーターによる) ①ごみの量を減らして、分別により循環率をたかめる
4	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光や資源循環を生かしたおためし住宅を推進 ・農業体験、アドバイザー設置、募集 ・市民農園にする ・空き地に菜種etc.を栽培 ・投資(オーナー制度) 	<ul style="list-style-type: none"> ※巡回販売車の業者に女性＝商品の低価格化 ※手をあげたらバスが停まれるように 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家をリノベーションして住みやすくし、広報やネットで利用者を募集する。 ・シェアハウスや地域食堂、いこいの場などに活用する。 ・自給自足のできる家、移住体験に使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・液肥をもっと活用する ・液肥米を学校給食に! 	<ul style="list-style-type: none"> ①Jr.エコサポーターによる見まわり声かけ活動 ②シェアできる環境づくり
5	<ul style="list-style-type: none"> ・継続が大切!! ・2050年の天気予報を見せる ・マイスター制の導入 ・環境教育の場を作る(ex.ルフランetc.の活用) 	<ul style="list-style-type: none"> ※異動のある行政から独立した発信組織を作る。恒常的な予算の仕組みを作り、政治的に独立させる。 ※松尾課長を移動させない(環境関連) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「そのうち～」などではなく「今日から」やれることをやる。 ・この場で得た知識を家族や知人と共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家を使えるようにもつと活用 ・市民の研究の場をつくるその研究の成果を議会で発表(研究費付き) 	<ul style="list-style-type: none"> ①合言葉は「もったいない!」で。 ②みやまのリサイクル広場(アプリも!!)

各自目標のとりまとめ

【目標1：二酸化炭素の排出が少ない社会の実現に向けた取り組み】

わたしの目標
これからも、元気で過ごし、もし出来るなら電気自動車に乗ってみたい。
家庭での二酸化炭素排出0を達成する(・太陽光発電導入:再エネ、・地中熱エネルギー利用:再エネ、・クールチョイス:省エネ)
・10年以内に電気自動車購入
再エネの電気を積極的に使う! 省エネにつとめて…
・燃やすごみを減らすため、雑紙集めをがんばります!
・電気の無駄遣いをなくして、皆で一緒に生活作り、CO2を少なくしたいです。
車の使用を控える
頭のズミにエネルギーとCO2を考えながら!!
もやさないかならぬごみを減らす。(簡単にリサイクルできるもの、ガンバッテリーサイクルできるもの、しっかり分ける)
CO2削減、エンカルな生活
自宅や職場のオフグリッド化!!

【目標 2：豊かな自然環境を未来へつなぐ】

わたしの目標
10年後も今の子どもたちが自然豊かなこのまちで住み暮らす事ができる様に、経済発展と自然保護の推進を行う!!
なるべく農業を使わずに、おいしい野菜が作れるよう研究する
川を汚さないようにする 地域の河川の見回りなどする
1.ホテルが乱れ飛ぶ環境に 今の保存会の活動 地道にがんばるぞ!
私は一隅を照らすことに専念する。 ほんの身の回りのことから、地域の美化(ゴミ拾い、雑草刈り、花だん作り)と循環型社会(ゴミ減量化、節電)をめざす。

【目標 3：循環型の社会づくり】

わたしの目標
レジ袋は使いません!! (マイバッグの徹底)
Myボトル・Myバッグを持ち歩く!!
ごみを出さない、マイバッグ活用、ごみ削減
近場は歩きます。 計画的にごはんを買って、食べ残しません。
生ごみ分別とソーラーパネル設置

【目標 4：健康で快適に暮らせる生活環境づくり】

わたしの目標
いつまでも元気にすごして近所の皆さまと楽しく暮らしたい
物を買いたえない 大切に使う
ゴミこそ資源 分別頑張ります♡
次世代に正しい知識を伝える。
浪費・無駄 ゴミを出さない様!!
市民一人ひとりが、より良い環境をめざす
小・中学生、市民と「資源循環のまち」研究をする。 議会で、発表する一まちづくりに反映 (市報でも紹介) (研究グループには、研究費を市が払う)
まずは自分が!!そして子どもにも!!
小さいことからコツコツと。

【目標 5：市民ひとりひとりが環境を考え行動する】

わたしの目標
家庭の中が暗くならないよう常に明るい存在であることを心がける ♡
歩いていける距離は車を使わない。自転車通勤!!
子や孫に残す為に、自然体で生活していきたい。 地域で生活する為に、環境をより良くしておきたい。(水、電気、空気、人とのつながり)
・早寝早起きでエネルギーの消費を減らす工夫 ・ラジオ体操等を行い足腰を丈夫にして車にたよらない生活の実現をめざす。
まず、自分の健康が一番だと思い、体力作り、散歩と、キントレをしています。 それと！江浦町は高齢化率が50%近いですので元気な人が元気でない方を見るという感じで進めて行ければと考えております。 子ども達が元気でくらす地域をしたいと思います。
・健康のために禁煙するぞ!
・呼びかけをして空地の除草をする。

山門高校、高田中学校ワークショップ結果報告

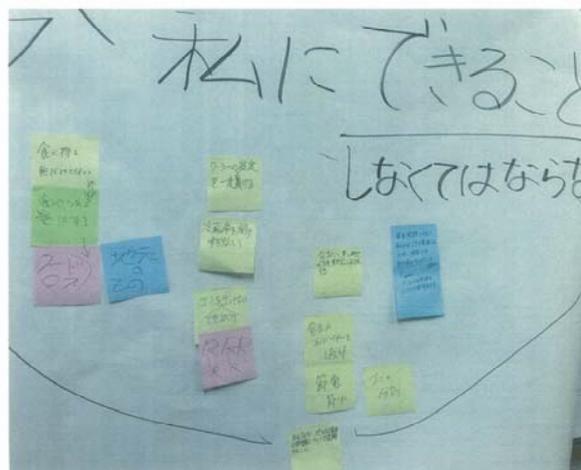
山門高校 ワークショップ (私たちの目標)

- 自分の無駄な行動を改める。自転車や公共交通機関を利用。車はエコカーを購入する。
- 歩き、自転車等といったCO₂を排出しない手段での通学をこころがける。
- 3Rショップをつくる!!。クリーンエネルギーで電気余剰をUP ↑ ↑
- 使わなくなった服をすぐに捨てず、使えそうな服は譲る。
- 再生紙を利用する。ハイブリット車の購入。リサイクル。
- 必要な物しかかわない!!。使えなくなるまで使う!!
- どこか行くときは、できるだけ自転車を使う!
- ポイ捨てをせず、ゴミ拾いを心がける。
- 近場は車を使わず、自転車で移動する。
- エコバッグを持参するようにする。
- 公共交通機関、自転車を利用する。
- CO₂排出量を意識して節電する。
- 裏紙を使ってメモ・計算する。
- 短距離移動は自転車or歩き
- ゴミを見つけたら拾う。
- 買う前によく考える!!



高田中学校 ワークショップ (私たちにできること)

- 食べ物をムダにしない (フードロス)
⇒食べられる量にする ⇒ 地元の物
- クーラーの温度を一度上げる。
- 冷蔵庫を開けすぎない。
- ゴミをできるだけ出さない。
- なるべく買い物袋を買わないようにする。
- 電気の無駄づかいを減らす。
- 節電、節水。
- 皆が、地球環境問題について理解する。
- ゴミを分別。
- 環境問題に対して自分ができる範囲での取り組み、キャンペーンを進めていく
- ゴミを減らす取り組み
パッケージを減らす売り方



第1次環境基本計画の達成状況

平成21（2009）年度策定のみやま市環境基本計画では、環境に関する基本方針毎に環境指標を設定しました。計画において設定した環境指標についての数値及び施策の実績状況を下記のとおり報告します。

基本方針1. 良好な生活環境の保全

目標	指標名	第1次（計画作成時）		2019年度		
		2008実績	2019目標	2019実績	評価	現状
空気をきれいにする	市公用車のエコカー（低公害車等）の導入台数	0台/78台中	30台/55台中	5台/95台中	△	エコカーに対する定義等について、計画当初と変わっている。電気自動車などの「次世代自動車」の導入は進んでいる。
	大気汚染に関する苦情件数	0件	現状を維持する	0件	◎	
	野焼きに関する苦情件数	34件	現状より減少させる	4件	◎	
	空気のきれいさに関する満足度（市民アンケート）	64%	80%	—	—	
水をきれいにする	河川の水質(BOD)に係る環境基準の達成・維持	67% (河川18箇所中6箇所不適)	不適箇所を減少させる	40% (河川22箇所中9箇所不適)	×	
	汚水処理人口普及率	40.3%	67%	62.1%	×	
	(下水道接続・浄化槽設置人口/総人口)	・下水道接続人口 → 3,155人 ・浄化槽設置人口 (市管理・補助) → 13,936人	→ 5,647人 → 23,011人	→ 3,562人 → 18,209人		
	水質汚濁に関する苦情件数	10件	現状より減少させる	3件	◎	
	河川の一斉清掃実施回数	2件	現状を維持する	2件	◎	
その他の生活環境を保全する	騒音に関する苦情件数	8件	現状より減少させる	2件	◎	
	振動に関する苦情件数	0件	現状を維持する	1件	×	2008年時は0件で、2019年時に1件となっているが、微増である。
	悪臭に関する苦情件数	1件	現状より減少させる	1件	△	2008年時と同等である。
	ペット公害に関する苦情件数	18件	現状より減少させる	3件	◎	

基本方針 2. 歴史的財産の保全

目標	指標名	第1次（計画作成時）		2019年度		
		2008実績	2019実績	2019実績	評価	現状
歴史的・文化的遺産を保全する	指定文化財等件数	国：8件（H21） 県：12件（H21） 市：47件（H21）	現状を維持するとともに追加を検討する	国：8件 県：12件 市：53件	◎	
	歴史的雰囲気豊かさに関する満足度（市民アンケート）	34%	50%	—	—	

基本方針 3. 人と自然の共生

目標	指標名	第1次（計画作成時）		2019年度		
		2008実績	2019目標	2019実績	評価	現状
ふるさと山や川、海を守る	公園・緑地の維持管理団体数	9 団体	18 団体	15 団体	△	計画作成時の目標を下回っているが、2008年時より増加している。
	水辺調査教室・自然環境保全学習の活動開催数	1 回	内容の充実を目指す	0 回	×	
	保安林指定面積（水源かん養・土砂流出防備・保健）	169 ha 水源かん養 0 ha 土砂流出防備 97 ha 土砂崩壊防備 0 ha 水害防備 12 ha 保健 60 ha	現状を維持する	211 ha 40 ha 99 ha 1 ha 12 ha 59 ha	◎	
	川など水辺のきれいさに関する満足度（市民アンケート）	33 %	60 %	—	—	
	自然環境の豊かさに関する満足度（市民アンケート）	43 %	60 %	—	—	
	農村環境を守る	エコファーマー認定者数	281 人	300 人	4 人	△
農業体験イベント開催数		1 回	内容の充実を目指す	24 回	◎	
農地面積		・田 2,761 ha ・畑 206 ha ・果樹園 777 ha	現状を維持する。	2,933 ha 149 ha 672 ha	◎	
福岡県減農薬・減化学肥料栽培認証面積		225 ha	面積の増加を目指す	212 ha	△	
自然の大切さを伝える	保存樹木等指定数（県天然記念物、市指定天然記念物）	6 本	現状を維持する。	6 本	◎	
		・県天然記念物 ・市指定天然記念物	1 本 5 本	1 本 5 本		

基本方針4. 地球にやさしいまちづくり

目標	指標名	第1次（計画作成時）		2019年度		
		2008実績	2019目標	2019実績	評価	理由
循環型社会を形成する	1人1日当たりごみ排出量	825g/人・日	825g/人・日（当初） 784g/人・日（見直し）	666g/人・日	◎	
	ごみリサイクル率	15.2%	20%（当初） 43%（見直し）	36%	×	
	最終処分率	10.4%	10.4%（当初） 9.2%（見直し）	10%	×	
	生ゴミ処理容器助成件数（累計）	電動式 303台	350台	0台	△	2018.12より、バイオマスセンターが稼働したため
	マイバッグの普及	—	数値を把握する	—	×	
	廃プラスチックの資源化	—	200 t（当初） 210 t（見直し）	319 t	◎	
ごみの不法投棄を防止する	不法投棄件数	35件	現状より減少させる	8件	◎	不法投棄件数
	ポイ捨て禁止看板設置数	650個	現状を維持する	1,860個	◎	ポイ捨て禁止看板設置数
省エネルギー・地球温暖化の防止・推進する	市庁舎の温室効果ガス排出量	10,856,798 (H19)	10,205,390 (H25) 削減率6%	7,140,093 (H25) 削減率 34%	◎	
	市民一人あたりの電気使用量（CO ₂ 排出量）	—	数値を把握する	—	×	
	みやま市地球温暖化対策地域推進計画の策定	—	計画を策定し、本市全体から排出されるCO ₂ 量を把握するとともに、目標値を立てる	みやま市温暖化対策実行計画策定（平成21年度からH25年度まで）	◎	
	太陽光発電システム設置数	292台 (H21)	500台（当初） 1,500台（見直し）	1,656台	◎	

基本方針5 みんなで守る、みんなでつくる

目標	指標名	第1次（計画作成時）		2019年度		
		2008 実績	2019 目標	2019 実績	評価	理由
環境意識を高める	こどもエコクラブの登録団体数	0 団体	3 団体	0 団体	◎	
	環境に関する出前講座等の開催数	1 回	開催数の増加を図る	6 回	◎	
	清掃センター見学者数	215 人	現状を維持する	2,254 人	◎	
	ピオトープの構築	—	導入について検討する	導入について検討する	△	
政が協 組む同 むして 取り行 市民・事業者・行政	環境関連の市民グループ、NPO等の団体数	13 団体	20 団体	18 団体	△	



第2次みやま市環境基本計画

令和3（2021）年3月

みやま市 環境経済部 環境衛生課

〒835-8601 福岡県みやま市瀬高町小川5番地

TEL : 0944-64-1521/FAX : 0944-64-1546

e-mail:kankyoushou@city.miyama.lg.jp